

第4章 講義要項

I 科目に関する項目										
①科目名	人格論 Personality theory					②科目コード	Y1-3C002			
③担当教員名	阿部 健一									
④実務経験						⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	通年	⑧単位(時間数)	4単位(60)	⑨授業形態	講義	⑩必選別	卒業必修
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		発達障がい児保育BP修了		必修	
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	キリスト教的な生き方の理解									
②授業の概要	トルストイの民話とマザー・テレサの言葉を通して、キリスト教的な生き方について理解する。各授業ごとに、予習表に基づいてグループワークを行い、理解を深める。									
③履修者の到達目標(学習成果)	1. (関心・意欲・態度) マザー・テレサの言動に関心を持ち、それを表明できる。 2. (思考・判断・表現) トルストイの民話、マザー・テレサの言動について考え、自分の意見を表明できる。 3. (知識・理解) キリスト教的な価値観について、正しく表明できる。									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性	○				
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業		ディスカッション・ディベート	○				
	グループワーク	○	プレゼンテーション		実習・フィールドワーク					
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			Google Classroom等による学習状況の把握と自主学習支援			○			
⑦授業の計画(授業の内容)										
第1回	オリエンテーション				第16回	洗礼の子①悪を悪で取り除こうとする				
第2回	愛のあるところに神あり①人生への絶望				第17回	洗礼の子②玉座から見えたもの				
第3回	愛のあるところに神あり②絶望を癒やすもの				第18回	洗礼の子③洗礼の子が犯した罪				
第4回	愛のあるところに神あり③誰の中にもイエス様が				第19回	洗礼の子④洗礼の子が学んだもの				
第5回	人にはどれほどの土地があるか①自分の土地を持つ喜び				第20回	洗礼の子⑤追剥の回心				
第6回	人にはどれほどの土地があるか②広い土地への欲望				第21回	火を粗末にすると消せなくなる①事の起こり				
第7回	人にはどれほどの土地があるか③広い自分の土地の欲望				第22回	火を粗末にすると消せなくなる②悪に悪で対した結末				
第8回	人にはどれほどの土地があるか④必要だった土地の広さ				第23回	火を粗末にすると消せなくなる③平和のために				
第9回	ろうそく①悪にどう立ち向かうか				第24回	人はなんで生きるか①不思議な青年との出会い				
第10回	ろうそく②悪に勝利するもの				第25回	人はなんで生きるか②人は、与える愛を持っている				
第11回	イワンのばか①悪魔の手口				第26回	人はなんで生きるか③人は自分の未来を知らない				
第12回	イワンのばか②イワンと兄たち				第27回	人はなんで生きるか④地に落とされた天使				
第13回	イワンのばか③イワン王が治める				第28回	人はなんで生きるか⑤人は何によって生きているか				
第14回	イワンのばか④対大悪魔イワンの勝利				第29回	僕らが自分らしくいられる理由				
第15回	イワンのばか⑤まとめ				第30回	扉をあける				
定期試験	実施しない									
⑧自主学習の課題	予習：予習表により事前学習を行う。90分程度を要する。 復習：約90分間の学習時間を要する。									
⑨テキスト	トルストイ著『トルストイ民話集イワンのばか』岩波文庫 1932年 トルストイ著『トルストイ民話集人は何で生きるか』岩波文庫 1932年 M・K・ポール著『コロコタの聖なるマザー・テレサ』サンパウロ 2007年									
⑩参考書/参考資料/準備物等	必要な資料は、各授業で随時配布する。									
⑪教材費	なし									
⑫履修条件/履修上の注意事項										
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	関・意・態	思・判・表	知識・理解				③配点比率		
1	定期試験							0	%	
2	小テスト	○	○	○				30	%	
3	提出物	○	○	○				30	%	
4	発表・実技・プレゼン	○	○	○				40	%	
5	受講態度							0	%	
6	自主学習態度							0	%	
7	その他							0	%	
④ルーブリック評価							比率合計	100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	①予習表については、グループワークを経て、学生の解答状況・質問を踏まえ、解答を例示し、解説する。 ②小テストについては、回収後、その場で解答を例示し、解説する。 それ以外の時点でも、成績評価に対する問い合わせには、個別に応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	幼児保育キャリア演習Ⅲ Career Exercise of Child Care and Education Ⅲ					②科目コード	Y1-3C001			
③担当教員名	町田 治 中島 千恵子 井出 麻里子 打越 みゆき 大井 美緒 竹森 亜美 坂本 真季									
④実務経験						⑤担当形態	複数			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	通年	⑧単位(時間数)	2単位(60)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	修了必修
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許	保育士資格		発達障がい児保育BP修了		必修			
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	社会人になる上での総仕上げ									
②授業の概要	<p>本授業は、主に4つの内容から構成される。</p> <p>1つ目は、社会人に向けて自己の特性を理解する「キャリアアップ講座」である。教育・保育関連の職業の特性について理解し、自己分析を通して必要な資質、能力を振り返る。</p> <p>2つ目は、社会に必要な技能を身に付ける「キャリアセンター企画講座」である。就職活動に必要な求人票の閲覧方法や履歴書作成、面接練習を実施する。さらに、園長講話やOG懇談会を通して、就職活動に必要な準備を明確にする。</p> <p>3つ目は、他学年との交流を通して最上級学年の学生として今まで育んできた共感、協働性を発揮し、更にそれぞれに深めることである。これらは本学の教育理念に裏打ちされて行われるものであり、3年間の学習を俯瞰しつつ社会の入口に立つ準備を行うこととなる。</p> <p>4つ目は、本科から積み重ねてきた現場体験活動の体験をより広げ深めることである。</p>									
③履修者の到達目標(学習成果)	<p>1. [キャリアアップ] 自己の特性を理解し、自己分析を通して自身の資質・能力を振り返りつつ将来を考えることができる。</p> <p>2. [キャリアセンター講座] 社会に必要な技能が身についている。</p> <p>3. [共感・協働性] 周りの人の考え・思いを大切にしつつ自分自身を保ちながら共に活動することができる。</p> <p>4. [現場体験活動] 現場体験活動を通して実際の仕事に触れる。</p>									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	ディスカッション・ディベート							
⑥ICT機器による授業や支援	グループワーク	○	プレゼンテーション	実習・フィールドワーク						
⑦授業の計画(授業の内容)	パソコン・タブレット端末による双方向授業		○			Google Classroom等による学習状況の把握と自主学習支援				
第1回	ガイダンス(キャリア演習Ⅲの1年間の概要とフィールドワーク)	第16回	面接及びマナーについて 社会人に必要な文章表現技術 レッスン③							
第2回	ガイダンス(クラス委員の選出・現場体験活動記録の説明)	第17回	就職活動①(個別相談・見学・面接・研修等)							
第3回	キャリアガイダンス 就職活動スケジュールの説明	第18回	就職活動②(個別相談・見学・面接・研修等)							
第4回	公務員の仕事説明	第19回	就職活動③(個別相談・見学・面接・研修等)							
第5回	就職活動に必要な知識・技能 ①進路について	第20回	面接対策(グループ・Web面接)							
第6回	就職活動に必要な知識・技能 ②進路希望調査	第21回	就職内定のお礼状作成							
第7回	履歴書の作成 社会人に必要な文章表現技術 レッスン①	第22回	就職活動の振り返り							
第8回	性格検査の実施	第23回	防災訓練②消防署の職員からの指導							
第9回	性格検査のフィードバック	第24回	労働関連講話「社会人として働き出したら」							
第10回	卒業生との懇談会①(公務員・児童養護)	第25回	現場体験活動の振り返り							
第11回	卒業生との懇談会②(幼稚園・こども園)	第26回	管区長講話							
第12回	卒業生との懇談会③(保育園)	第27回	同窓生としてのアイデンティティ							
第13回	卒業生との懇談会④(特別支援学校)	第28回	学生部主催講演会							
第14回	学長講話 社会人に必要な文章表現技術 レッスン②	第29回	学長講話							
第15回	夏期休暇中の過ごし方 防災訓練①保育現場での避難の実際	第30回	まとめ 3年間で振り返って							
定期試験	実施しない									
⑧自主学習の課題	<p>予習：保育を中心にした社会事情、又政治・社会面に関するニュース・情報に日頃から目を向けておくことが予習となる。</p> <p>復習：授業内容について、学生生活や卒業後の社会人生活において活かせるよう必要と思われる内容について各自でファイリングや記録にまとめて保管する。</p> <p>課題を行うための時間は60分程度。</p>									
⑨テキスト	適宜プリントを配布する。									
⑩参考書/参考資料/準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館									
⑪教材費	なし									
⑫履修条件/履修上の注意事項										
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	キャリアアップ	キャリアセンター講座	共感・協働性	現場体験活動(フィールドワーク)	③配点比率				
1	定期試験					0	%			
2	小テスト					0	%			
3	提出物	○	○	○	○	80	%			
4	発表・実技・プレゼン					0	%			
5	受講態度	○	○	○		20	%			
6	自主学習態度					0	%			
7	その他					0	%			
④ルーブリック評価						比率合計	100	%		
⑤課題等に対するフィードバックの方法	アドバイザー、キャリアセンター職員、アシスタント等、内容に関わりの深い担当者が必要に応じて対応、フィードバックを行う。									
IV その他										
専攻科修了必修科目である。										

I 科目に関する項目										
①科目名	卒業研究ゼミナール（町田） Graduation Research Seminar					②科目コード	Y1-3C003			
③担当教員名	町田 治									
④実務経験						⑤担当形態	複数、クラス分け			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	通年	⑧単位（時間数）	2単位（60）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	修了必修
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		必修	発達障がい児保育BP修了		必修
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	音楽に関する研究または音楽作品創作を行う。									
②授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> 各自で設定したテーマに基づく研究、創作を行い、論文または作品（研究小論文を含む）にまとめる。 研究についての論述の仕方、論点の整理の仕方、書式、音楽研究発表に必要な方法・知識を学ぶ。 研究倫理について知る。 									
③履修者の到達目標（学習成果）	<ol style="list-style-type: none"> 【テーマの設定】【目次の設定】【修了研究提出後のレジュメ作成】文章を構成し、まとめることができる。 【創作・研究への取組】音楽に関する文章の表現、文書上での提示の仕方を知る。（作品の場合）楽譜の基本的な書き方が分かる。 【創作・研究への取組】研究資料の読み方を知る。 【創作・研究への取組】研究発表をする上で、倫理上やってはならないことが分かるようになる。 									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	ディスカッション・ディベート							
⑥ ICT 機器による授業や支援	グループワーク	プレゼンテーション	実習・フィールドワーク							
⑦授業の計画（授業の内容）	パソコン・タブレット端末による双方向授業					グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援				
第1回	ガイダンス（ゼミでのスケジュール及び実施内容の確認）			第16回	夏期課題進捗状況報告と後期スケジュールの確認					
第2回	各自の研究計画の立案			第17回	文章作成①目次から章、節へ（実際の組み立て）					
第3回	各自の研究計画の立案第17回文章作成①目次から章、節へ（実際の組み立て）第3回研究する上での資料の調べ方、扱い方① 図書館の利用			第18回	文章作成②第1章第1節					
第4回	研究する上での資料の調べ方、扱い方② ネットの利用			第19回	文章作成③第1章第2節					
第5回	研究する上での資料の調べ方、扱い方③『参考資料』という意識			第20回	文章作成④第2章第1節					
第6回	卒業研究では何をするのか、（論文とは、作品創作の場合）			第21回	文章作成⑤第2章第2節					
第7回	テーマの選定①選べるテーマ、テーマにならないもの			第22回	文章作成⑥第3章第1節					
第8回	テーマの選定②テーマにたどり着くために			第23回	文章作成⑧第3章第2節					
第9回	テーマの選定③各自のテーマ探し			第24回	文章全体の見直し					
第10回	テーマの仮決定			第25回	論文用ファイルの配布と提出のための確認					
第11回	各テーマに沿った資料探し、創作計画立案			第26回	文章作成⑨序論・研究目的、結論、終わりに、の確認					
第12回	資料整理の仕方、研究の場合の資料の扱い方			第27回	文章作成⑩参考資料一覧の確認					
第13回	目次の立て方			第28回	修論・作品提出のための最終確認					
第14回	文章を書く 1節に当たる文章を書いてみる			第29回	各自の論文・創作に関するレジュメの作成					
第15回	テーマの決定と目次の提出			第30回	ゼミ内での修了研究発表					
定期試験	実施しない									
⑧自主学習の課題	予習：各自が課題を決めて資料を読み、必要な文章をまとめ、作品ならスケッチを描いておく。 復習：授業でのコメントや指摘を受けて、修正したり先を進めたりしていく。 1日30分から3時間と、各自の進捗、内容、また時期によってかかる時間は幅が出てくる。									
⑨テキスト	授業の中で、適宜資料を配布する。									
⑩参考書／参考資料／準備物等	必要な資料は、各授業で随時配布する。									
⑪教材費	なし									
⑫履修条件／履修上の注意事項										
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	テーマの設定	目次の設定	創作・研究への取り組み	修了研究提出後のレジュメ作成	③配点比率				
	1 定期試験					0	%			
2 小テスト						0	%			
3 提出物	○	○			○	30	%			
4 発表・実技・プレゼン			○			20	%			
5 受講態度	○	○	○		○	25	%			
6 自主学習態度	○	○	○		○	25	%			
7 その他						0	%			
④ルーブリック評価	取り入れていない					比率合計	100	%		
⑤課題等に対するフィードバックの方法	課題が提出されたところで、問題点、改善点を指摘し、次の課題を提示する。									
IV その他										

I 科目に関する項目																																																																						
①科目名	卒業研究ゼミナール（中島） Graduation Research Seminar					②科目コード	Y1-3C003																																																															
③担当教員名	中島 千恵子																																																																					
④実務経験						⑤担当形態	複数、クラス分け																																																															
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	通年	⑧単位（時間数）	2単位（60）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	修了必修																																																												
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		必修	発達障がい児保育BP修了		必修																																																												
⑫教職課程																																																																						
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目																																																																					
II 授業内容に関する項目																																																																						
①テーマ	①情報教育：情報通信技術の教育への活用に関わること。②教材開発：幼児保育に役立つ教材開発に関わること。																																																																					
②授業の概要	各自が興味・関心のある研究テーマを選定し、教材開発に関する研究手法を身につけることを目的とする。具体的には、教材の仕様（対象者、学習目標など）を検討し、教材を制作し、得られた結果の考察を行い、論文を執筆する。																																																																					
③履修者の到達目標（学習成果）	1. 研究テーマを選定し、研究計画を立案することが出来る。 2. 教材の仕様（対象者、学習目標など）を設定し、実際に教材を制作することが出来る。 3. 研究成果を論文にまとめることが出来る。 4. パワーポイントを活用したプレゼンテーションが出来る。																																																																					
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性																																																																	
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	○	反転授業		ディスカッション・ディベート	○																																																																
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業				グループワーク	○	プレゼンテーション	○	実習・フィールドワーク																																																													
⑦授業の計画（授業の内容）	<table border="1"> <tr> <td>第1回</td> <td>ガイダンス（研究計画の立案）</td> <td>第16回</td> <td>演習（試作の改善点の検討）</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>テーマ選定（研究の動機）</td> <td>第17回</td> <td>演習（教材の改善）</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>テーマ選定（現状の把握）</td> <td>第18回</td> <td>演習（教材の試用とグループディスカッション）</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>研究の目的</td> <td>第19回</td> <td>演習（教材の改善）</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>研究の方法</td> <td>第20回</td> <td>演習（教材の試用とグループディスカッション）</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>教材の仕様（対象者、学習目標の設定）</td> <td>第21回</td> <td>演習（教材の改善）</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>教材の仕様（情報構造・構成の検討）</td> <td>第22回</td> <td>考察（教材の利用方法など）</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>教材の仕様（デザイン・配色の検討）</td> <td>第23回</td> <td>考察（教材の特徴、先行研究との比較など）</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>教材の仕様（素材の検討）</td> <td>第24回</td> <td>考察（問題点と今後の課題など）</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>教材の仕様（利用方法の検討）</td> <td>第25回</td> <td>結論の検討</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>教材の仕様（先行研究との比較）</td> <td>第26回</td> <td>論文の推敲、提出</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>教材の仕様（教材の特徴）</td> <td>第27回</td> <td>プレゼンテーション準備（スライドの作成方法）</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>演習（教材の素材収集）</td> <td>第28回</td> <td>プレゼンテーション準備（スライドの作成）</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>演習（教材の試作）</td> <td>第29回</td> <td>プレゼンテーションリハーサル</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>中間発表会（グループディスカッション）</td> <td>第30回</td> <td>最終発表会（プレゼンテーション、ディスカッション）</td> </tr> </table>										第1回	ガイダンス（研究計画の立案）	第16回	演習（試作の改善点の検討）	第2回	テーマ選定（研究の動機）	第17回	演習（教材の改善）	第3回	テーマ選定（現状の把握）	第18回	演習（教材の試用とグループディスカッション）	第4回	研究の目的	第19回	演習（教材の改善）	第5回	研究の方法	第20回	演習（教材の試用とグループディスカッション）	第6回	教材の仕様（対象者、学習目標の設定）	第21回	演習（教材の改善）	第7回	教材の仕様（情報構造・構成の検討）	第22回	考察（教材の利用方法など）	第8回	教材の仕様（デザイン・配色の検討）	第23回	考察（教材の特徴、先行研究との比較など）	第9回	教材の仕様（素材の検討）	第24回	考察（問題点と今後の課題など）	第10回	教材の仕様（利用方法の検討）	第25回	結論の検討	第11回	教材の仕様（先行研究との比較）	第26回	論文の推敲、提出	第12回	教材の仕様（教材の特徴）	第27回	プレゼンテーション準備（スライドの作成方法）	第13回	演習（教材の素材収集）	第28回	プレゼンテーション準備（スライドの作成）	第14回	演習（教材の試作）	第29回	プレゼンテーションリハーサル	第15回	中間発表会（グループディスカッション）	第30回	最終発表会（プレゼンテーション、ディスカッション）
第1回	ガイダンス（研究計画の立案）	第16回	演習（試作の改善点の検討）																																																																			
第2回	テーマ選定（研究の動機）	第17回	演習（教材の改善）																																																																			
第3回	テーマ選定（現状の把握）	第18回	演習（教材の試用とグループディスカッション）																																																																			
第4回	研究の目的	第19回	演習（教材の改善）																																																																			
第5回	研究の方法	第20回	演習（教材の試用とグループディスカッション）																																																																			
第6回	教材の仕様（対象者、学習目標の設定）	第21回	演習（教材の改善）																																																																			
第7回	教材の仕様（情報構造・構成の検討）	第22回	考察（教材の利用方法など）																																																																			
第8回	教材の仕様（デザイン・配色の検討）	第23回	考察（教材の特徴、先行研究との比較など）																																																																			
第9回	教材の仕様（素材の検討）	第24回	考察（問題点と今後の課題など）																																																																			
第10回	教材の仕様（利用方法の検討）	第25回	結論の検討																																																																			
第11回	教材の仕様（先行研究との比較）	第26回	論文の推敲、提出																																																																			
第12回	教材の仕様（教材の特徴）	第27回	プレゼンテーション準備（スライドの作成方法）																																																																			
第13回	演習（教材の素材収集）	第28回	プレゼンテーション準備（スライドの作成）																																																																			
第14回	演習（教材の試作）	第29回	プレゼンテーションリハーサル																																																																			
第15回	中間発表会（グループディスカッション）	第30回	最終発表会（プレゼンテーション、ディスカッション）																																																																			
定期試験	実施しない（評価は、授業時の課題およびプレゼンテーション等で行う）																																																																					
⑧自主学習の課題	予習：約30分間の学習時間を要する。予習事項は、各授業で提示する。 復習：約30分間の学習時間を要する。復習事項は、各授業で提示する。																																																																					
⑨テキスト	授業時にプリントを配布する。																																																																					
⑩参考書／参考資料／準備物等	参考書は、授業内で随時紹介する。 USBメモリは、各自で準備すること。																																																																					
⑪教材費	個人で使用する物品費は、自己負担とする。																																																																					
⑫履修条件／履修上の注意事項	授業を欠席した場合は、復習・予習事項に自ら取り組むこと。																																																																					
III 学習項目と評価方法・配点比率																																																																						
①学習項目	研究テーマの選定	教材の制作	論文の記述	プレゼンテーション			③配点比率																																																															
②評価方法																																																																						
1	定期試験						0	%																																																														
2	小テスト						0	%																																																														
3	提出物	○	○	○	○		60	%																																																														
4	発表・実技・プレゼン				○		20	%																																																														
5	受講態度	○	○	○	○		20	%																																																														
6	自主学習態度						0	%																																																														
7	その他						0	%																																																														
④ルーブリック評価	取り入れていない					比率合計	100	%																																																														
⑤課題等に対するフィードバックの方法	課題の成績評価に対する問い合わせに応ずる。																																																																					
IV その他																																																																						

I 科目に関する項目										
①科目名	卒業研究ゼミナール（井出） Graduation Research Seminar					②科目コード	Y1-3C003			
③担当教員名	井出 麻里子									
④実務経験						⑤担当形態	複数、クラス分け			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	通年	⑧単位（時間数）	2単位（60）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	修了必修
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		必修	発達障がい児保育BP修了		必修
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	各自の設定したテーマについて研究成果をまとめる									
②授業の概要	自分の興味のある分野からテーマを設定し、個別指導を受けながら論文を執筆もしくは作品を制作し、3年間の集大成としてまとめ上げる。随時、学術研究における倫理規程や執筆上のルールについても解説する。									
③履修者の到達目標（学習成果）	1. 研究テーマ、研究方法について設定できる。（研究テーマ・研究方法） 2. 研究テーマに関する情報を収集し、必要に応じたデータを作成することができる。（データ収集・データ作成） 3. 収集した情報・データを整理、分析し、論理的に構成することができる。（論理構成） 4. 自分自身の言葉で考えを論述するとともに、第三者に分かりやすく表現し、発表することができる。（文章表現・発表） 5. 研究倫理について理解し、研究のプロセスおよび「幼児教育研究」の執筆に活かすことができる。（研究倫理）									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
	○	○	○	○	○					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業		ディスカッション・ディベート	○				
	グループワーク		プレゼンテーション		実習・フィールドワーク					
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			Googleクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			○			
⑦授業の計画（授業の内容）										
第1回	オリエンテーション：授業の進め方、評価				第16回	論文作成に必要なWord機能について				
第2回	研究とは何か・研究倫理について				第17回	論文の書き方②：引用・要約の仕方				
第3回	研究の進め方①：研究ノートの使い方				第18回	データ作成①：事例の書き方				
第4回	研究の進め方②：文献研究				第19回	データ作成②：表のまとめ方				
第5回	研究の進め方③：フィールドワーク				第20回	データ作成③：写真画像の扱い				
第6回	研究テーマの設定①：文献の利用				第21回	個別指導③：データの扱い方				
第7回	研究テーマの設定②：インターネットの利用				第22回	個別指導④：本章				
第8回	先行研究の調べ方				第23回	個別指導⑤：終章				
第9回	個別指導①：テーマ設定と研究方法				第24回	タイトルの最終決定と表紙、目次の書き方				
第10回	ゼミ内発表会①：テーマ設定と研究方法				第25回	参考文献一覧、謝辞の書き方				
第11回	研究計画の立案				第26回	個別指導⑥：タイトルの決定				
第12回	論文の書き方①：序章の書き方				第27回	提出後の振り返りと研究発表会について				
第13回	論文構成について				第28回	個別指導⑦：研究発表会資料				
第14回	個別指導②：序章				第29回	ゼミ内発表会③：研究発表会				
第15回	ゼミ内発表会②：序章				第30回	卒業研究のまとめと自己評価				
定期試験	実施しない									
⑧自主学習の課題	予習：卒業研究の進捗状況に合わせて、毎回、個別に設定する。約30分の学習時間を要する。 復習：卒業研究の進捗状況に合わせて、毎回、個別に設定する。約30分の学習時間を要する。									
⑨テキスト	授業時に資料を配付する。									
⑩参考書／参考資料／準備物等	必要に応じて紹介する。									
⑪教材費	・作品制作を行う場合の材料費、実践現場での検証を行う場合の交通費などは各自で負担する。 ・大学ノート（B5サイズ）を1冊用意すること。									
⑫履修条件／履修上の注意事項	オンデマンド授業の課題は Google classroom 経由で提出するため、本科目の Classroom に必ず参加すること（クラスコードは初回授業で伝える）									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目		研究テーマ・研究方法	データ収集・データ作成	論理構成	文章表現・発表	研究倫理	③配点比率			
②評価方法	1	定期試験					0	%		
	2	小テスト					0	%		
	3	提出物	○	○	○	○	75	%		
	4	発表・実技・プレゼン	○	○	○	○	10	%		
	5	受講態度	○	○	○	○	10	%		
	6	自主学習態度	○	○	○	○	5	%		
	7	その他					0	%		
④ルーブリック評価	取り入れていない					比率合計	100	%		
⑤課題等に対するフィードバックの方法	成績評価に対する問い合わせには個別に応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	卒業研究ゼミナール (打越) Graduation Research Seminar					②科目コード	Y1-3C003			
③担当教員名	打越 みゆき									
④実務経験						⑤担当形態	複数、クラス分け			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	通年	⑧単位 (時間数)	2単位 (60)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	修了必修
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許			保育士資格	必修	発達障がい児保育 BP 修了		必修	
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	独自の視点で研究テーマに関する作品分析や実践を行い、研究成果としてまとめる。									
②授業の概要	前期は、個々の興味のあることについて発表し、討議しながら視野を広げ、研究の基礎資料をまとめる。後期からは本格的に執筆する。独自の視点で研究テーマに関する作品分析や実践を行い、研究成果としてまとめる。研究成果をまとめたものを他者にわかりやすく説明する。									
③履修者の到達目標 (学習成果)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究計画にしたがって、幼児教育総合研究を執筆することができる。 2. 研究成果をレジメ・パワーポイントにまとめることができる。 3. 研究成果を発表することができる。 									
④ディプロマブリシール (DP) との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
	○	○	○	○	○					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	○	反転授業			ディスカッション・ディベート				
	グループワーク		プレゼンテーション			実習・フィールドワーク				
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業					グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			○	
⑦授業の計画 (授業の内容)										
第1回	合同ゼミガイダンス			第16回	幼児教育総合研究 資料整理をする					
第2回	ゼミガイダンス、発表スケジュール作り			第17回	幼児教育総合研究 目次を書く					
第3回	研究テーマを考える			第18回	幼児教育総合研究 序論・研究目的を書く					
第4回	研究テーマを発表する			第19回	幼児教育総合研究 序論・研究方法を書く					
第5回	テーマにふさわしい参考文献を探す			第20回	幼児教育総合研究 第1章第1節を書く					
第6回	テーマにふさわしい先行研究を探す			第21回	幼児教育総合研究 第1章第2節を書く					
第7回	論文の書き方を学ぶ			第22回	幼児教育総合研究 第2章第1節を書く					
第8回	研究目的を考える			第23回	幼児教育総合研究 第2章第2節を書く					
第9回	研究方法を考える			第24回	幼児教育総合研究 各章をまとめる					
第10回	目次を考える			第25回	幼児教育総合研究 結論を書く					
第11回	研究方法にしたがって調査・分析等の準備をする			第26回	幼児教育総合研究 仕上げる					
第12回	研究方法にしたがって調査・分析等の情報収集をする			第27回	幼児教育総合研究 最終チェックをする					
第13回	研究方法にしたがって調査・分析等の実際の作業を行う			第28回	研究発表用のレジメを作成する					
第14回	作業状況について教員の個別指導を受ける			第29回	研究発表用のパワーポイントを作成する					
第15回	夏休みの計画を考える			第30回	ゼミ内で研究成果を発表する					
定期試験	なし									
⑧自主学習の課題	予習：各回の課題に取り組む。約60分を要する。 復習：授業以外でも研究を進める。時期にもよるが、60分～240分を要する。									
⑨テキスト	なし									
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 論文検索サイト (CiNii) で自分の研究テーマに関する先行研究を検索し、手元に用意すること。									
⑪教材費	各自の研究に必要な資料代。									
⑫履修条件 / 履修上の注意事項	特になし。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	研究執筆	レジメ パワーポイント	研究成果の 発表					③配点比率	
	1 定期試験								0	%
2 小テスト									0	%
3 提出物	○	○							50	%
4 発表・実技・プレゼン				○					20	%
5 受講態度			○	○					20	%
6 自主学習態度	○	○	○	○					10	%
7 その他									0	%
④ルーブリック評価	取り入れている						比率合計	100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	Google クラスルーム、または提出原稿を随時添削してフィードバックする。									
IV その他										
Google クラスルーム使用、ゼミの人数、時間割の状況によって、グループワークを取り入れることがある。										

I 科目に関する項目											
①科目名	卒業研究ゼミナール (大井) Graduation Research Seminar					②科目コード	Y1-3C003				
③担当教員名	大井 美緒										
④実務経験	幼稚園教諭 (15年)					⑤担当形態	複数、クラス分け				
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	通年	⑧単位 (時間数)	2単位 (60)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	修了必修	
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		必修	発達障がい児保育 BP 修了		必修	
⑫教職課程											
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目										
II 授業内容に関する項目											
①テーマ	幼児教育に関するテーマを設定し、卒業研究としてまとめる。										
②授業の概要	幼稚園教諭としての勤務経験をもつ教員が担当する。前期は、保育に関する事例等を提示し、子ども理解や保育者の援助など視点を定めて討論を行い考察をしていく。これらを通して幼児教育について関心のあるテーマを設定していく。後期は、目的を定めてテーマに関する研究に取り組み、卒業研究としてまとめあげ、ゼミ内発表会においてプレゼンテーションする。										
③履修者の到達目標 (学習成果)	1. [関心・意欲・態度] 自分の興味や関心をもとに探求できる研究テーマを設定できる。 2. [思考・判断・表現] 研究テーマに関連する文献や資料等情報を収集できる。 3. [技能] 収集した情報を整理、分析、考察し、自分の考えを論述し卒業研究としてまとめる。 4. [知識・理解] 研究内容について、パワーポイントを用いたプレゼンテーションができる。										
④ディプロマポリシー (DP) との関係	①カリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性						
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	○	反転授業		ディスカッション・ディベート	○					
	グループワーク		プレゼンテーション	○	実習・フィールドワーク						
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			○				
⑦授業の計画 (授業の内容)											
第1回	オリエンテーション 卒業研究の進め方			第16回	研究進捗状況の報告						
第2回	研究テーマの設定について			第17回	結果の整理方法						
第3回	研究テーマを探す① (先行研究の探し方)			第18回	結果の図の作成について						
第4回	研究テーマを探す② (文献の探し方)			第19回	結果の表の作成について						
第5回	先行研究の整理の仕方			第20回	結果の記述						
第6回	研究の動機・目的について			第21回	考察の書き方						
第7回	発表①研究テーマと構想			第22回	考察の作成						
第8回	卒業研究の書き方 (基本的なルール)			第23回	結論の作成						
第9回	研究を進めるにあたっての倫理規定について			第24回	引用参考文献、謝辞の書き方について						
第10回	目次の作成			第25回	卒業研究全体の確認						
第11回	序論の書き方と作成			第26回	研究協力者への報告について						
第12回	研究方法の書き方			第27回	研究発表に向けて① (プレゼンテーションの作成)						
第13回	発表② (研究テーマ・序論・方法) 前半グループ			第28回	研究発表に向けて② (資料の作成)						
第14回	発表② (研究テーマ・序論・方法) 後半グループ			第29回	発表リハーサル						
第15回	夏休みの課題と今後の研究計画について			第30回	ゼミ内卒業研究発表会						
定期試験	なし										
⑧自主学習の課題	予習：テーマに関する文献を調べ要約する。指導内容を踏まえて研究を進めていくこと。予習には30分の学習時間を要する。 復習：助言や指導を受けた事項を確認し、加筆・修正をし、研究をまとめていく。復習には30分の学習時間を要する。										
⑨テキスト	必要な資料は、随時は配布する。										
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等	必要に応じて紹介する。										
⑪教材費	研究に必要な教材やフィールドワーク等にかかる費用は個人負担とする。										
⑫履修条件 / 履修上の注意事項	授業に欠席した場合は、予習・復習事項を自ら取り組むこと。										
III 学習項目と評価方法・配点比率											
①学習項目	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	③配点比率						
②評価方法											
1 定期試験										%	
2 小テスト										%	
3 提出物	○	○	○	○				50		%	
4 発表・実技・プレゼン	○	○	○	○				30		%	
5 受講態度	○	○	○	○				10		%	
6 自主学習態度	○	○	○	○				10		%	
7 その他										%	
④ルーブリック評価	取り入れている						比率合計	100		%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	提出物は、添削をし個別指導をして返却する。										
IV その他											

I 科目に関する項目										
①科目名	卒業研究ゼミナール（竹森） Graduation Research Seminar					②科目コード	Y1-3C003			
③担当教員名	竹森 亜美									
④実務経験	臨床心理士・公認心理師					⑤担当形態	複数、クラス分け			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	通年	⑧単位（時間数）	2単位（60）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	修了必修
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		必修	発達障がい児保育BP修了		必修
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	特別支援教育におけるアセスメントの理解／障がい児心理学の実践研究									
②授業の概要	臨床心理士・公認心理師として、発達障がい児・者とその家族の心理支援、学校現場への巡回相談などの実践経験を活かし、実践現場へのフィールドワークを推奨し、授業を展開する。本授業では、特別支援教育や障がい児心理学の先行研究や実践報告等を購読し、研究テーマとなる問題を設定する。さらに、現場での実践研究または調査研究を計画、実行、評価する力を養う。前期では、実践研究を進めるための必須技術であるインタビュー調査・介入研究についての理解を深める。また、研究を実施する上での倫理的配慮を学びながら、フィールドワーク先で実施可能な研究計画を立案する。後期には、収集したデータを分析・整理した上で結果をまとめ、そこから考察できる事象をまとめる。研究によって得られた成果を現場に報告する。									
③履修者の到達目標（学習成果）	1. 特別支援教育及び障がい児心理学の実践研究の手法（アセスメントを含む）と研究倫理に関する知識を習得する。 2. 現在のフィールドワークから、実践研究を計画し、実行する。 3. 実践報告や調査研究により収集したデータを分析・整理し、論理的に考察することができる。 4. 研究成果をまとめ、保育・教育の実践現場にわかりやすく報告する。									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	○	反転授業		ディスカッション・ディベート					
	グループワーク		プレゼンテーション		実習・フィールドワーク	○				
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			Google Classroom等による学習状況の把握と自主学習支援			○			
⑦授業の計画（授業の内容）										
第1回	前期ガイダンス			第16回	後期ガイダンスと研究進捗状況の報告					
第2回	実践研究演習1：インタビュー調査①			第17回	データの分析と結果の表示方法について					
第3回	実践研究演習2：インタビュー調査②			第18回	研究中間発表1：前半グループ					
第4回	実践研究演習3：介入研究①			第19回	研究中間発表2：後半グループ					
第5回	実践研究演習4：介入研究②			第20回	データの整理方法1：グラフの作成					
第6回	実践研究演習5：介入研究③			第21回	データの整理方法2：表の作成					
第7回	フィールドワーク先の決定と研究テーマの設定			第22回	考察の書き方について					
第8回	研究を進めるにあたっての倫理規程について			第23回	結論と要旨による結果のまとめ					
第9回	先行研究調査と文献引用について			第24回	研究論文の校正1：用語整理					
第10回	実践研究の手法について			第25回	研究論文の校正2：引用文献の確認					
第11回	研究テーマと研究フィールドの発表1：前半グループ			第26回	研究発表方法について					
第12回	研究テーマと研究フィールドの発表2：後半グループ			第27回	研究の報告と研究フィールドへのお礼					
第13回	データの種類と収集方法について			第28回	研究成果報告書の作成					
第14回	研究依頼文書の作成と送付			第29回	研究発表会・報告準備					
第15回	夏期休業中のフィールドワークについて			第30回	研究フィールドへの報告及びお礼の実践					
定期試験 実施しない										
⑧自主学習の課題	予習：引用文献となる文献を調べ、入手しておくこと。 復習：研究に関わる資料や授業での配布資料を整理し、研究論文執筆たえの手順と進捗を各自で確認すること。 ※予習・復習含め、60分程度の時間を要する。									
⑨テキスト	授業時に資料を配布する。									
⑩参考書／参考資料／準備物等	一般社団法人日本保育学会倫理綱領ガイドブック編集委員『改訂 保育学研究倫理ガイドブック：子どもの幸せを願うすべての保育者と研究者のために』フレーベル館、2012年									
⑪教材費	研究実施に必要な図書費、フィールドワークにかかる交通費、教材費は個人の負担とするが、相談を受け付ける。									
⑫履修条件／履修上の注意事項	特記事項なし。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目		アセスメント	研究遂行力	論文執筆	研究倫理の理解	③配点比率				
②評価方法	1 定期試験								%	
	2 小テスト								%	
	3 提出物	○	○	○	○			40	%	
	4 発表・実技・プレゼン	○	○	○	○			30	%	
	5 受講態度								%	
	6 自主学習態度	○	○	○	○			10	%	
	7 その他							20	%	
④ルーブリック評価	研究論文の作成において、一部ルーブリック評価を活用する。				比率合計	100 %				
⑤課題等に対するフィードバックの方法	課題（研究論文やレポート等）の成績評価に対する個別の問い合わせに応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	卒業研究ゼミナール（坂本） Graduation Research Seminar					②科目コード	Y1-3C003			
③担当教員名	坂本 真季									
④実務経験	公認心理師・臨床発達心理士					⑤担当形態	複数、クラス分け			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	通年	⑧単位（時間数）	2単位（60）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	必修
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許			保育士資格		必修	発達障がい児保育BP修了		必修
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	子育て支援領域において研究テーマを設定し、卒業研究としてまとめ上げる。									
②授業の概要	公認心理師（臨床発達心理士）として子育て支援に従事してきた教員が担当する。保育・子育て支援において問題意識やテーマを絞り込み、フィールドワークから事象を客観的に捉え整理し、文献に基づきながら評価・考察する。これらの経過を記録し、卒業研究としてまとめ上げる。卒業研究は、ゼミ内発表会においてプレゼンテーションする。Google classroomにより課題・資料を提示し、必要に応じて meet やメールによるオンライン個別指導を行う。									
③履修者の到達目標（学習成果）	1 [関心・意欲・態度] 子育て支援に関する先行研究を概観し、探求したいテーマを設定できる。 2 [思考・判断・表現] 研究テーマについて多面的に考察し、先行研究や他者の意見をふまえて自分の意見を述べるができる。 3 [技能] 心理学的研究手法に基づき、目的に沿った研究の実施、結果の整理、考察ができる。 4 [知識・理解] 文献検索、論文作成の基本的事項と研究テーマに関する基礎知識を理解し卒業研究を作成できる。									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	○	反転授業		ディスカッション・ディベート	○				
	グループワーク	○	プレゼンテーション	○	実習・フィールドワーク	○				
⑥ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			○	グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			○		
⑦授業の計画（授業の内容）										
第1回	卒業研究の進め方				第16回	研究実施の準備				
第2回	子育て支援領域における研究テーマ				第17回	結果の整理方法				
第3回	研究テーマを探す① インターネットの検索方法				第18回	結果の表作成				
第4回	研究テーマを探す② 図書館における文献検索				第19回	結果の図作成				
第5回	先行研究の整理方法				第20回	結果の記述				
第6回	研究動機・構想の作成				第21回	考察の書き方				
第7回	個人発表①（研究テーマと構想発表）				第22回	考察の作成				
第8回	個人発表①（研究テーマと構想発表）				第23回	考察・結論の作成				
第9回	論文の書き方（基本ルールと目次の作成）				第24回	引用文献・資料・謝辞の書き方				
第10回	序論の書き方と作成				第25回	卒論最終チェック *ゼミ内卒論提出				
第11回	研究方法と方法の書き方				第26回	卒論の振り返りとまとめの作成				
第12回	個人発表②（目次、序論、方法）				第27回	研究協力者への報告書作成				
第13回	個人発表②（目次、序論、方法）				第28回	発表パワーポイントの作成				
第14回	研究実施に関する倫理				第29回	発表リハーサル				
第15回	研究の実施計画				第30回	ゼミ卒業研究発表会				
定期試験	実施しない									
⑧自主学習の課題	・ 研究テーマに関連する書籍・論文を検索し、その内容について要約すること。 ・ 指導内容をふまえて、論文の執筆を進めていくこと。 ・ 授業外の時間に研究の実施を行うこと。 自主学習時間は、本授業の前後に各 90 分間を要する。									
⑨テキスト	なし *必要な資料は、随時配布する。									
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等	参考書：白井利明・高橋一郎（著）「よくわかる卒論の書き方第2版」ミネルヴァ書房 その他、参考資料などは随時紹介する。									
⑪教材費	フィールドワークおよび卒業研究に関わる経費は、個人負担とする。									
⑫履修条件 / 履修上の注意事項	・ フィールドワークをもとに卒業研究を行う。 ・ 受講者全員が自由に意見が出し合える雰囲気をつくれるよう、他者の意見を尊重し、ポジティブなやりとりを期待する。 ・ やむを得ない理由により欠席した場合には、翌週の授業時に授業資料を受け取る事。 ・ 本科目の Classroom に必ず参加すること（クラスコードは初回の講義で伝えます）。 ・ 自宅学習が必要な状況となった場合には、オンデマンド型の授業動画及び課題を Google classroom より配信する予定である。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	③配点比率					
②評価方法										
1 定期試験					0	%				
2 小テスト					0	%				
3 提出物	○	○	○	○	50	%				
4 発表・実技・プレゼン	○	○	○	○	30	%				
5 受講態度	○	○	○	○	10	%				
6 自主学習態度	○	○	○	○	10	%				
7 その他					0	%				
④ルーブリック評価	取り入れている				比率合計		100	%		
⑤課題等に対するフィードバックの方法	提出物については、添削し返却するとともに講評する。 発表については、内容・態度・技能について講評する。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	卒業研究 Graduation Research					②科目コード	Y1-3C004			
③担当教員名	町田 治 中島 千恵子 井出 麻里子 打越 みゆき 大井 美緒 竹森 亜美 坂本 真季									
④実務経験						⑤担当形態	複数、クラス分け			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	通年	⑧単位(時間数)	2単位	⑨授業形態	演習	⑩必選別	修了必修
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		必修	発達障がい児保育BP修了		必修
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	各自の設定したテーマについての研究成果をまとめる。									
②授業の概要	自分の興味・関心のあるテーマを設定し、指導教員のもと研究を進めて報告書の執筆や作品制作を行ない、3年間の集大成としてまとめる。(作品制作の場合でも報告書は付きねばならない。)									
③履修者の到達目標(学習成果)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマを設定できる。 2. 研究テーマに関する情報収集ができる。 3. 集めた情報を整理し、分析することができる。 4. 自分の考えを論述できる(自分の表現したいものを制作物・作品として形にできる)。 5. 公に文書を発表、公表する際の倫理、研究倫理に基づき、研究発表ができる。 									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
	○			○						
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業		ディスカッション・ディベート					
	グループワーク		プレゼンテーション		実習・フィールドワーク					
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			Google Classroom等による学習状況の把握と自主学習支援						
⑦授業の計画(授業の内容)										
第1回	<p>各自行った研究に基づいて、担当教員の指導を受けながら報告書としてまとめる。制作物の場合も報告書は必須であり、担当教員の指導に従ってまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提出分量(文字数、ページ数等)、書式、提出方法、提出日時、提出場所については、各担当教員の指示に従う。 ・報告書、制作物の審査・評価後、研究発表を行うことがある。 ・提出した報告書、制作物は、専攻科修了までに本人に返却される。 ・担当教員から、保存資料として報告書のコピーの指定を受けることがある。コピーは図書館にて閲覧可能な資料として保存される。 									
第2回										
第3回										
第4回										
第5回										
第6回										
第7回										
第8回										
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
第13回										
第14回										
第15回										
定期試験	報告書、制作物そのものが評価対象となる。									
⑧自主学習の課題	各担当教員の「卒業研究ゼミナール」講義要項に従う。									
⑨テキスト	各担当教員の「卒業研究ゼミナール」講義要項に従う。									
⑩参考書/参考資料/準備物等	各担当教員の「卒業研究ゼミナール」講義要項に従う。									
⑪教材費	各担当教員の「卒業研究ゼミナール」講義要項に従う。									
⑫履修条件/履修上の注意事項	各担当教員の「卒業研究ゼミナール」講義要項に従う。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目								③配点比率		
②評価方法	各担当教員の「卒業研究ゼミナール」講義要項に従う。								%	
1 定期試験									%	
2 小テスト									%	
3 提出物									%	
4 発表・実技・プレゼン									%	
5 受講態度									%	
6 自主学習態度									%	
7 その他									%	
④ルーブリック評価	取り入れていない					比率合計		%		
⑤課題等に対するフィードバックの方法	各担当教員の「卒業研究ゼミナール」講義要項に従う。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	特別演習 A Special Seminar and Research A					②科目コード	Y6-3B001			
③担当教員名	町田 治									
④実務経験						⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	前期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		発達障がい児保育BP修了			
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	保育で必要とされる音楽技術を総合的に高める。									
②授業の概要	レッスンを通して、ピアノ演奏、歌唱、弾き歌い、伴奏の弾き方・付け方、コード・ネームの読み方を学ぶ。 就職試験での音楽課題にも対応する。									
③履修者の到達目標(学習成果)	1. [ピアノ演奏技術] ピアノ演奏、歌唱力が上達する。 2. [弾き歌いの技術] 弾き歌いがより上達する。 3. [コードネームの理解] コード・ネームによる伴奏付けができるようになる。 4. [音楽的総合力] レッスンで課題曲を最低5曲は仕上げる。									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能			③共感性	④コミュニケーション		⑤協働性		
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業		ディスカッション・ディベート					
	グループワーク		プレゼンテーション		実習・フィールドワーク					
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業				Google Classroom等による学習状況の把握と自主学習支援					
⑦授業の計画(授業の内容)										
第1回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについての復習(英語音名)。									
第2回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(復習:長三和音~臨時記号が付かない和音)。									
第3回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(復習:長三和音~臨時記号が付く和音)。									
第4回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(復習:長三和音のみによるハ長調の課題の実施)。									
第5回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(復習:長三和音のみによるヘ長調の課題の実施)。									
第6回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(復習:長三和音のみによる変ロ長調の課題の実施)。									
第7回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(短三和音~臨時記号が付かない和音)。									
第8回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(短三和音~臨時記号が付く和音)。									
第9回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(短三和音の入ったハ長調の課題の実施)。									
第10回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(短三和音の入ったヘ長調の課題の実施)。									
第11回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(短三和音の入ったニ長調の課題の実施)。									
第12回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(短三和音の入った変ロ長調の課題の実施)。									
第13回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(短三和音の入った変ロ長調の課題の実施)。									
第14回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(短調:短音階、短調の曲想)									
第15回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(短調:イ短調の課題の実施)									
定期試験	実施しない レッスンでの課題実施を持って評価する。									
⑧自主学習の課題	予習:各自の課題曲の練習(要30分)。 復習:レッスンで受けた指摘、テクニックが身につくまで練習する。(要30分)。コード・ネームの理解と使用法について(要30分)。保育現場での総合的に使える音楽技術を身に付ける(要30分)。									
⑨テキスト	全体に必要な課題、説明資料は、授業時に配布する									
⑩参考書/参考資料/準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	各自の課題曲の楽譜入手にかかる費用は、各自で負担する。									
⑫履修条件/履修上の注意事項	各自で入手した楽譜は、ファイルして授業に持ち込むこと。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目		ピアノ演奏技術	弾き歌いの技術	コード・ネームの理解	音楽的総合力	③配点比率				
②評価方法										
1	定期試験							0	%	
2	授業で実施する課題の採点	○	○	○	○			80	%	
3	提出物							0	%	
4	発表・実技・プレゼン							0	%	
5	受講態度	○	○	○	○			10	%	
6	自主学習態度	○	○	○	○			10	%	
7	その他							0	%	
④ルーブリック評価	取り入れていない					比率合計		100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	成績評価に対する問い合わせは個別に応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目											
①科目名	特別演習 B Special Seminar and Research B					②科目コード	Y6-3B002				
③担当教員名	町田 治										
④実務経験						⑤担当形態	単独				
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	後期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択	
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		発達障がい児保育BP修了				
⑫教職課程											
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目										
II 授業内容に関する項目											
①テーマ	保育で必要とされる音楽技術を総合的に高める。										
②授業の概要	レッスンを通して、ピアノ演奏、歌唱、弾き歌い、伴奏の弾き方・付け方、コード・ネームの読み方を学ぶ。就職試験での音楽課題にも対応する。										
③履修者の到達目標(学習成果)	<ol style="list-style-type: none"> 1. [ピアノ演奏技術] ピアノ演奏、歌唱力が上達する。 2. [弾き歌いの技術] 弾き歌いがより上達する。 3. [コードネームの理解] コード・ネームによる伴奏付けができるようになる。 4. [音楽的総合力] レッスンで課題曲を最低5曲は仕上げる。 ([特別演習A]と同じ授業概要、学習成果となっているが、レッスン課題はAとは異なる課題にて行うことになる) 										
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能			③共感性	④コミュニケーション		⑤協働性			
		○			○			○			
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業				ディスカッション・ディベート				
	グループワーク		プレゼンテーション				実習・フィールドワーク				
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業				グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援						
⑦授業の計画(授業の内容)											
第1回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(属7の和音:ハ長調の課題)										
第2回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(属7の和音:ト長調の課題)										
第3回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(属7の和音:ヘ長調の課題)										
第4回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(減7の和音:ハ長調の課題)										
第5回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(減7の和音:二長調の課題)										
第6回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(減7の和音:変ロ長調の課題)										
第7回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(付加6の和音:ハ長調の課題)										
第8回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(増3和音:ヘ長調の課題)										
第9回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(短7の和音:ト長調の課題)										
第10回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(長7の和音:ハ長調の課題)										
第11回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(掛留和音:ハ長調の課題)										
第12回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(属9の和音:ヘ長調の課題)										
第13回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(種々の和音を取り混ぜた課題:ト長調の課題)										
第14回	各自の課題曲のレッスン。コード・ネームについて(種々の和音を取り混ぜた課題:変ロ長調の課題)										
第15回	各自の課題曲のレッスン。日本の旋法とコードについて										
定期試験	実施しない レッスンでの課題実施を持って評価する。										
⑧自主学習の課題	予習:各自の課題曲の練習(要30分)。 復習:レッスンで受けた指摘、テクニックが身につくまで練習する。(要30分)。コード・ネームの理解と使用法について(要30分)。保育現場での総合的に使える音楽技術を身に付ける(要30分)。										
⑨テキスト	全体に必要な課題、説明資料は、授業時に配布する。										
⑩参考書/参考資料/準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館										
⑪教材費	各自の課題曲の楽譜入手にかかる費用は、各自で負担する。										
⑫履修条件/履修上の注意事項	各自で入手した楽譜は、ファイルして授業に持ち込むこと。「特別演習A」が未履修であっても履修可。										
III 学習項目と評価方法・配点比率											
②評価方法	①学習項目	ピアノ演奏技術	弾き歌いの技術	コード・ネームの理解	音楽的総合力					③配点比率	
1	定期試験									0	%
2	授業で実施する課題の採点	○	○	○	○					80	%
3	提出物									0	%
4	発表・実技・プレゼン									0	%
5	受講態度	○	○	○	○					10	%
6	自主学習態度	○	○	○	○					10	%
7	その他									0	%
④ルーブリック評価	取り入れていない					比率合計				100	%
⑤課題等に対するフィードバックの方法	成績評価に対する問い合わせは個別に応じる。										
IV その他											

I 科目に関する項目										
①科目名	特別演習 C Special Seminar and Research C					②科目コード	Y6-3B003			
③担当教員名	武田 秀美									
④実務経験						⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	前期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許			保育士資格			発達障がい児保育 BP 修了		
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	幼児保育のための児童文学（絵本）の研究									
②授業の概要	幼児や児童の言葉と心を豊かに育む、日本と外国の「絵本」の研究を通して、「絵本」の意義や魅力について探求する。 また、幼児保育における読み聞かせに役立つ作品の解釈と鑑賞の方法と、幼児や児童の発達年齢・発達状況に応じた絵本の提供の方法と技術を学ぶ。									
③履修者の到達目標（学習成果）	1. 幼児保育に必要な、児童文学（絵本）に関する基礎的、基本的な知識や情報を身に付け、説明することができる。 2. 児童文学作品の解釈と鑑賞の能力を身に付け、自らの考察を適切に文章でまとめるとともに、口頭で述べることができる。 3. 幼児・児童の発達年齢や発達状況にふさわしい児童文学作品の選定・与え方の知識と方法と技術を身に付け、実践できる。									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	○	ディスカッション・ディベート	○					
⑥ ICT 機器による授業や支援	グループワーク	○	プレゼンテーション	○	実習・フィールドワーク					
⑦授業の計画（授業の内容）	パソコン・タブレット端末による双方向授業					ゲーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援				
⑧自主学習の課題	予習：採り上げる作品の読解と「作品研究シート」記入の宿題が出された場合は、必ず取り組み、授業に参加できるように準備する。 復習：授業で採り上げた作品や参考資料・配布プリントなどを読み返し、理解を深めること。予習・復習ともに、約 45 分の学習時間を要する。									
⑨テキスト	プリント教材を使用する。									
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 他の参考文献は、授業中に紹介する。									
⑪教材費										
⑫履修条件 / 履修上の注意事項	定員 15 名。 採り上げる絵本や数は、受講者の人数や状況により変更となる場合がある。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目	児童文学に関する基礎的 基本的知識・ 情報	作品の解釈と 鑑賞の能力と 言語表現力	保育における 作品選定 および 実演の能力							③配点比率
②評価方法										
1 定期試験									0	%
2 小テスト									0	%
3 提出物	○	○	○						30	%
4 発表・実技・プレゼン	○	○	○						50	%
5 受講態度	○	○	○						10	%
6 自主学習態度	○	○	○						10	%
7 その他										%
④ルーブリック評価	学生の演習発表の評価において用いている。						比率合計	100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	提出物は返却し、授業中に解説・指導を行う。 また、成績評価に対する問い合わせには、個別に応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	特別演習 D Special Seminar and Research D				②科目コード	Y6-3B004				
③担当教員名	武田 秀美									
④実務経験					⑤担当形態	単独				
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	後期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	幼児保育のための児童文学(童話・昔話・民話・物語・絵本)の研究									
②授業の概要	幼児や児童の言葉と心を豊かに育む、日本と外国の「児童文学」(童話・民話・昔話・物語・絵本)の研究を通して、児童文学の意義や魅力について探求する。また、幼児保育における読み聞かせに役立つ児童文学作品の解釈と鑑賞の方法と、幼児や児童の発達年齢に応じた児童文学の提供の方法を学ぶ。 具体的には、作品についての各自の作品研究、学生グループでの意見交換、各グループごとの意見の発表、教員による作品についての解説を行う。									
③履修者の到達目標(学習成果)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児保育に必要な、児童文学に関する基礎的、基本的な知識や情報を身に付け、説明することができる。 2. 児童文学作品の解釈と鑑賞の能力を身に付け、自らの考察を適切に文章でまとめるとともに、口頭で述べるることができる。 3. 幼児・児童の発達年齢や発達状況にふさわしい児童文学作品の選定・与え方の知識と方法について説明することができる。 									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業	○	ディスカッション・ディベート	○				
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			○	グループワーク	○	実習・フィールドワーク			
⑦授業の計画(授業の内容)	<p>第1回 授業の進め方、成績評価について</p> <p>第2回 児童文学の概要(童話・民話・昔話・物語・絵本等)について</p> <p>第3回 児童文学の研究の方法について(絵本『ぐりとぐらのかいすいよく』を例に)</p> <p>第4回 アンデルセン「おやゆび姫」の研究(1) 時間設定・舞台設定・作品構成・登場する存在について</p> <p>第5回 アンデルセン「おやゆび姫」の研究(2) 作品のテーマ、表現の特色について</p> <p>第6回 アンデルセン「おやゆび姫」の研究(3) 幼児向け絵本版『おやゆび姫』の種類と内容について</p> <p>第7回 グリム童話「小人の贈物」と日本の昔話「こぶとりじいさん」の研究(1) 時間設定・舞台設定・作品構成・登場する存在について</p> <p>第8回 グリム童話「小人の贈物」と日本の昔話「こぶとりじいさん」の研究(2) 作品のテーマ、表現の特色について</p> <p>第9回 グリム童話「小人の贈物」と日本の昔話「こぶとりじいさん」の研究(3) 幼児向け絵本版「こぶとりじいさん」の種類と内容について</p> <p>第10回 新美南吉「ごんぎつね」の研究(1) 時間設定・舞台設定・作品構成・登場する存在</p> <p>第11回 新美南吉「ごんぎつね」の研究(2) 作品のテーマ、表現の特色について</p> <p>第12回 新美南吉「ごんぎつね」の研究(3) 幼児向け絵本版『ごんぎつね』について</p> <p>第13回 レオ・バスキア『葉っぱのフレディ』の研究(1) 時間設定・舞台設定・作品構成・登場する存在</p> <p>第14回 レオ・バスキア『葉っぱのフレディ』の研究(2) 作品のテーマ、表現の特色について</p> <p>第15回 保育・児童教育における児童文学の意義と役割について</p> <p>定期試験 実施しない</p>									
⑧自主学習の課題	<p>予習：授業で採り上げる作品については必ず読み、研究・考察し、授業でのグループ学習(ディスカッション)に参加できるように準備する。</p> <p>復習：授業で採り上げた作品や参考文献・資料・配布プリントなどを読み返し、理解を深める。予習・復習ともに、約45分の学習時間を要する。</p>									
⑨テキスト	プリント教材を使用する。									
⑩参考書/参考資料/準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 他の参考文献は、授業中に紹介する。									
⑪教材費										
⑫履修条件/履修上の注意事項	定員15名。 授業中に採り上げる作品は必ず読み、「作品研究シート」を提出するとともに、グループ学習・口頭発表を行うことが履修の条件となる。 なお、採り上げる児童文学は、受講者の人数や状況により変更となる場合がある。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目	児童文学に関する基礎的 基本的知識・ 情報	作品の解釈と 鑑賞の能力と 言語表現力	保育における 作品の選定と 与え方の知識						③配点比率	
②評価方法										
1 定期試験									%	
2 小テスト									%	
3 提出物	○	○	○					40	%	
4 発表・実技・プレゼン	○	○	○					40	%	
5 受講態度	○	○	○					10	%	
6 自主学習態度	○	○	○					10	%	
7 その他									%	
④ルーブリック評価	なし							比率合計	100	%
⑤課題等に対するフィードバックの方法	提出物は返却し、授業中に解説・指導を行う。 また、成績評価に対する問い合わせには、個別に応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	特別演習 E Special Seminar and Research E					②科目コード	Y6-3B005			
③担当教員名	中島 千恵子									
④実務経験						⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	前期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	生成 AI を利活用した Web による情報発信技術（基礎）									
②授業の概要	Society5.0 の社会で AI（人工知能）により引き起こされる社会の大きな変化を認識し、デジタル社会に主体的に対応できる情報発信技術力を育成することを目的とする。具体的には、生成 AI を利活用する際に必要な知識と技術を学び、Web による情報発信のための企画立案の手法を身につける。また、ユニバーサルな情報の共有・発信という観点から、HTML によるコーディング技法を習得する。									
③履修者の到達目標（学習成果）	1. 生成 AI を使用する際の留意事項を理解し、生成 AI を利活用できる。 2. Web による情報発信のための企画立案の手法を説明できる。 3. テキストエディタを使って、HTML によるコーディングができる。									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	○	反転授業		ディスカッション・ディベート	○				
	グループワーク	○	プレゼンテーション	○	実習・フィールドワーク					
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援						
⑦授業の計画（授業の内容）										
第 1 回	イントロダクション、生成 AI の利活用について									
第 2 回	文書の基本構造を表す HTML									
第 3 回	演習（コーディング：分かりやすい情報表現）									
第 4 回	分散管理のためのリンク技術									
第 5 回	演習（コーディング：ハイパーリンク）									
第 6 回	表現を分離するスタイルシート									
第 7 回	演習（コーディング：スタイルシート）									
第 8 回	テーブル									
第 9 回	演習（コーディング：テーブル）									
第 10 回	マルチメディアオブジェクトの扱い									
第 11 回	演習（コーディング：マルチメディアオブジェクト）									
第 12 回	Web プロジェクトのワークフロー									
第 13 回	企画の立案									
第 14 回	演習（企画の立案：動機、目的、対象者）グループディスカッション・プレゼンテーション									
第 15 回	演習（企画の立案：期待効果、発信内容）グループディスカッション・プレゼンテーション									
定期試験	実施しない（評価は、授業時の小テスト、課題レポート、プレゼンテーション等で行う）									
⑧自主学習の課題	予習：約 30 分間の学習時間を要する。予習事項は、各授業で提示する。 復習：約 30 分間の学習時間を要する。復習事項は、各授業で提示する。									
⑨テキスト	授業時にプリントを配布する。									
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等	参考書は、授業内で随時紹介する。 USB メモリは、各自で準備すること。									
⑪教材費	特になし。									
⑫履修条件 / 履修上の注意事項	授業を欠席した場合は、復習・予習事項に自ら取り組むこと。 定員 10 名まで。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	生成 AI の利活用	情報発信のための企画立案	HTML コーディング					③配点比率	
1	定期試験								0	%
2	小テスト		○						10	%
3	提出物	○	○	○					50	%
4	発表・実技・プレゼン	○	○	○					20	%
5	受講態度	○	○	○					10	%
6	自主学習態度	○	○	○					10	%
7	その他								0	%
④ルーブリック評価	取り入れている						比率合計	100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	成績評価に対する問い合わせは個別に応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	特別演習 F Special Seminar and Research F					②科目コード	Y6-3B006			
③担当教員名	中島 千恵子									
④実務経験						⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	後期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	生成 AI を利活用した Web による情報発信技術（応用）									
②授業の概要	Society5.0 の社会で AI（人工知能）により引き起こされる社会の大きな変化を認識し、デジタル社会に主体的に対応できる情報発信技術力を育成することを目的とする。具体的には、生成 AI を利活用する際に必要な知識と技術を学び、Web による情報発信のための企画立案の手法を身につける。また、ユニバーサルな情報の共有・発信という観点から、HTML によるコーディング技法を習得する。なお、後期は各自が興味・関心のあるテーマを選定し、Web サイトを制作する。									
③履修者の到達目標（学習成果）	1. 生成 AI を使用する際の留意事項を理解し、生成 AI を利活用できる。 2. Web による情報発信のための企画立案の手法を説明できる。 3. テキストエディタを使って、HTML によるコーディングができる。									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能		③共感性		④コミュニケーション		⑤協働性		
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	○	反転授業			ディスカッション・ディベート		○		
	グループワーク		プレゼンテーション	○		実習・フィールドワーク				
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による 双方向授業				グーグルクラスルーム等による 学習状況の把握と自主学習支援					
⑦授業の計画（授業の内容）										
第 1 回	イントロダクション、生成 AI の利活用について									
第 2 回	Web サイト情報構造の設計									
第 3 回	演習（Web サイト情報構造の設計）									
第 4 回	ページ情報構造の設計									
第 5 回	演習（ページ情報構造の設計）									
第 6 回	デザイン・ガイドラインの設計									
第 7 回	演習（デザインガイドラインの設計）									
第 8 回	オブジェクト指向ベースのクライアントサイドスクリプト（JavaScript）									
第 9 回	演習（JavaScript）									
第 10 回	キャッチコピーの設定									
第 11 回	演習（キャッチコピー）									
第 12 回	演習（コーディング：基本構造）									
第 13 回	演習（コーディング：スタイルシート）									
第 14 回	演習（プレゼンテーション準備）									
第 15 回	まとめ（プレゼンテーション、ディスカッション）									
定期試験	実施しない（評価は、授業時の課題レポートおよびプレゼンテーション等で行う）									
⑧自主学習の課題	予習：約 30 分間の学習時間を要する。予習事項は、各授業で提示する。 復習：約 30 分間の学習時間を要する。復習事項は、各授業で提示する。									
⑨テキスト	授業時にプリントを配布する。									
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等	参考書は、授業内で随時紹介する。 USB メモリは、各自で準備すること。									
⑪教材費	特になし									
⑫履修条件 / 履修上の注意事項	本講義を受講するためには、「特別演習 E」を事前に受講することが求められる。 授業を欠席した場合は、復習・予習事項に自ら取り組むこと。 定員 10 名まで。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	生成 AI の利活用	情報発信のための企画立案	HTML コーディング					③配点比率	
1	定期試験								0	%
2	小テスト								0	%
3	提出物	○	○	○					50	%
4	発表・実技・プレゼン	○	○	○					30	%
5	受講態度	○	○	○					10	%
6	自主学習態度	○	○	○					10	%
7	その他								0	%
④ルーブリック評価	取り入れている						比率合計	100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	成績評価に対する問い合わせは個別に応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	特別演習 G (モンテッソーリ教育の理論) Special Seminar and Research G					②科目コード	Y6-3B007			
③担当教員名	井出 麻里子									
④実務経験						⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	前期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	モンテッソーリ教育の理論について理解する。									
②授業の概要	テキスト・配付資料や、視聴覚教材、モンテッソーリ教具を提示しながら、モンテッソーリ教育の理論について解説をしていく。授業内容をノートにまとめ、適宜、提出することで理解度を確認する。									
③履修者の到達目標(学習成果)	1. モンテッソーリ教育の基本原則について説明できる。(教育原理) 2. モンテッソーリ教具のカリキュラムや教具の意図について説明できる。(教具論) 3. モンテッソーリ教師および大人の役割について説明できる。(教師論)									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業		ディスカッション・ディベート	○				
	グループワーク	○	プレゼンテーション		実習・フィールドワーク					
⑥ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			Google クラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			○			
⑦授業の計画(授業の内容)										
第1回	オリエンテーション：授業の概要と進め方、評価についてなど / モンテッソーリ教育とは									
第2回	マリア・モンテッソーリの生涯と業績									
第3回	モンテッソーリ教育の成立過程と基本原理①「パン屑をあさる障がい児」のエピソード									
第4回	モンテッソーリ教育の成立過程と基本原理②「円柱差しの女兒」のエピソード									
第5回	モンテッソーリ教育の成立過程と基本原理③「敏感期」について									
第6回	モンテッソーリ教具について(モンテッソーリ教具の5分野)									
第7回	「日常生活の練習」教具の紹介と教具体験									
第8回	「感覚教具」① 教具の紹介と教具体験									
第9回	「感覚教具」② 感覚教具の特徴とねらい									
第10回	「算数教具」① 目的とカリキュラム									
第11回	「算数教具」② 教具の紹介と教具体験									
第12回	「言語教具」① 目的とカリキュラム									
第13回	「言語教具」② 教具の紹介と教具体験									
第14回	モンテッソーリ教師の役割：DVD視聴									
第15回	まとめ：モンテッソーリ教育における大人の役割									
定期試験	実施する(レポート)									
⑧自主学習の課題	予習：テキストや配付資料を読み、疑問点をノートにまとめる。約30分の学習時間を要する。 復習：授業内容をノートにまとめ、考察を書く。約30分の学習時間を要する。									
⑨テキスト	田中昌子著『マンガでやさしくわかるモンテッソーリ教育』日本能率協会マネジメントセンター2018年									
⑩参考書/参考資料/準備物等	授業内で随時紹介する。									
⑪教材費	大学ノート(B5サイズ)を1冊用意すること。									
⑫履修条件/履修上の注意事項	・教具体験はグループワークの形式で行う。 ・オンデマンド課題は Google classroom 経由で提出するため、本科目の Classroom に必ず参加すること(クラスコードは初回授業で伝える)									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目	教育原理	教具論	教師論						③配点比率	
②評価方法										
1 定期試験(レポート)			○						30	%
2 小テスト									0	%
3 提出物(ノート)	○	○	○						60	%
4 発表・実技・プレゼン									0	%
5 受講態度	○	○	○						5	%
6 自主学習態度	○	○	○						5	%
7 その他									0	%
④ルーブリック評価	取り入れている						比率合計	100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	成績評価に対する問い合わせには個別に応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目											
①科目名	特別演習 H (モンテッソーリ教育の実践) Special Seminar and Research H					②科目コード	Y6-3B008				
③担当教員名	井出 麻里子										
④実務経験						⑤担当形態	単独				
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	後期	⑧単位 (時間数)	1 単位 (30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択	
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		発達障がい児保育 BP 修了				
⑫教職課程											
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目										
II 授業内容に関する項目											
①テーマ	モンテッソーリ教育の実践について知る。										
②授業の概要	画像・DVDなどの視聴覚教材や実際のモンテッソーリ教具を提示しながら、モンテッソーリ教育の実践について解説をしていく。授業内容をノートにまとめ、適宜、提出することで理解度を確認する。また、モンテッソーリ教育を実践している現場でのフィールドワークを行い、モンテッソーリ教育の実際を知る。										
③履修者の到達目標 (学習成果)	1. 各発達段階の特徴と、その時期にふさわしい養育・保育環境について説明できる。(発達と環境) 2. モンテッソーリ教育の実践事例を知り、その特徴を説明できる。(実践事例の理解) 3. モンテッソーリ教育の実践現場を体験し、レポートにまとめる。(実践現場体験)										
④ディプロマポリシー (DP) との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能			③共感性	④コミュニケーション		⑤協働性			
		○			○			○			
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業			ディスカッション・ディベート						
	グループワーク	プレゼンテーション			実習・フィールドワーク		○				
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業				グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援				○		
⑦授業の計画 (授業の内容)											
第1回	オリエンテーション：授業の概要と進め方、フィールドワーク、評価についてなど										
第2回	モンテッソーリ・メソッドの実践① DVD 視聴と解説 『モンテッソーリ教育0歳児の家庭環境 出産～5ヶ月』										
第3回	0歳児の子育て環境 (家庭におけるモンテッソーリ教育)										
第4回	モンテッソーリ・メソッドの実践② DVD 視聴と解説 『ニド モンテッソーリ教育0歳児の発達と環境』										
第5回	0歳児クラスの保育環境① スペースと家具の配置										
第6回	0歳児クラスの保育環境② モンテッソーリ教具と教師の役割										
第7回	モンテッソーリ・メソッドの実践③ DVD 視聴と解説 『インファントコミュニティ モンテッソーリ教育 1～3歳児の生活教育』										
第8回	1～3歳児クラスの保育環境										
第9回	モンテッソーリ・メソッドの実践③ DVD 視聴と解説 『子どもの家 モンテッソーリ教育 3～6歳児の感覚教育』										
第10回	3～6歳児クラスの保育環境										
第11回	モンテッソーリ園の特徴 (一般園との比較を通して)										
第12回	フィールドワーク① 概要説明										
第13回	フィールドワーク② 事前学習										
第14回	フィールドワーク③ 園見学										
第15回	フィールドワーク④ フィールドワークの振り返りとモンテッソーリ教育の実践に関するまとめ										
定期試験	実施する (レポート課題)										
⑧自主学習の課題	予習：テキストや配付資料を読み、疑問点をノートにまとめる。約30分の学習時間を要する。 復習：授業内容をノートにまとめ、考察を書く。約30分の学習時間を要する。										
⑨テキスト	随時、資料を配付する。										
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等	授業内で随時紹介する。										
⑪教材費	・大学ノート (B5 サイズ) 1冊を用意すること。・フィールドワークにかかる費用は各自の負担となる。										
⑫履修条件 / 履修上の注意事項	・前期に開講している「幼児教育研究 G (モンテッソーリ教育の理論)」を履修していること。 ・オンデマンド課題は Google classroom 経由で提出するため、本科目の Classroom に必ず参加すること。(クラスコードは初回授業で伝える)										
III 学習項目と評価方法・配点比率											
②評価方法	①学習項目	発達と環境	実践事例の理解	実践現場体験					③配点比率		
1	定期試験 (レポート)			○					30	%	
2	小テスト								0	%	
3	提出物 (ノート)	○	○						60	%	
4	発表・実技・プレゼン								0	%	
5	受講態度	○	○	○					5	%	
6	自主学習態度	○	○	○					5	%	
7	その他								0	%	
④ルーブリック評価	取り入れている							比率合計	100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	成績評価に対する問い合わせには個別に応じる。										
IV その他											

I 科目に関する項目										
①科目名	特別演習Ⅰ（保育時事問題演習） Special Seminar and ResearchⅠ					②科目コード	Y6-3B009			
③担当教員名	打越 みゆき									
④実務経験						⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	前期	⑧単位（時間数）	1単位（30）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許			保育士資格			発達障がい児保育BP修了		
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	公務員採用試験に向けての面接・小論文対策									
②授業の概要	この授業では、公務員採用試験を受験希望の人を対象に、保育時事問題を取り上げ、試験で必要とされる小論文・面接・グループ討議等の力を身につける。保育士資格に必要な知識や自らの体験を総合的に捉え、自分の意見として人にわかりやすく伝えられるようにする。									
③履修者の到達目標（学習成果）	1. 保育時事問題について、自分の意見を文章にまとめることができる。 2. 保育時事問題について、自分の意見を人にわかりやすく伝えることができる。 3. 保育時事問題について、他者の意見を受け止めながら、自分の意見を伝えることができる。									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	ディスカッション・ディベート		○					
	グループワーク	プレゼンテーション	○		実習・フィールドワーク					
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業		○		グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援					
⑦授業の計画（授業の内容）										
第1回	ガイダンス・目標の設定									
第2回	小論文の基本的な考え方									
第3回	小論文の基本 実践① 公務員とは									
第4回	小論文の基本 実践①の振り返り									
第5回	保育に関する時事問題を調べる									
第6回	保育に関する時事問題を発表する									
第7回	小論文の基本 実践② 保育とは									
第8回	小論文の基本 実践②の振り返り									
第9回	保育時事問題・グループ討議の基本									
第10回	保育時事問題・グループ討議の実践									
第11回	保育時事問題・個人面接の基本									
第12回	保育時事問題・模擬面接									
第13回	保育時事問題・自己PRの基本									
第14回	保育時事問題・自己PRの実践									
第15回	総合問題（これまでの授業をふまえて、小論文としてまとめる）									
定期試験	なし									
⑧自主学習の課題	予習：約10分間の学習時間を要する。（新聞などを読み、時事問題について情報収集をする） 復習：約60分間の学習時間を要する。（授業での課題を復習、または解き直しをする）									
⑨テキスト	鈴木鋭智・著『改訂版 何を書けばいいかわからない人のための小論文のオキテ55』KADOKAWA 2020年									
⑩参考書／参考資料／準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 ※汐見稔幸・監修『保育所保育指針ハンドブック 2017年告示版』学研教育みらい ※近喰晴子・監修／コンデックス情報研究所編著『保育士採用試験重要ポイント＋問題集'26年度版』									
⑪教材費	なし									
⑫履修条件／履修上の注意事項	公務員採用試験を受験する人は必ず受講すること。受験する可能性のある人もできれば受講すること。受講者の中で希望があれば、試験前に面接の個別練習を受けることができる。 ※受け身にならず、自分から進んで調べたり、質問することができる人を望む。 授業を欠席した場合には、Google classroomを確認するとともに翌週の授業時に授業資料を受け取る。自宅学習が必要な状況となった場合には、オンデマンド型の課題を Google classroom より配信する予定である。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	小論文	面接練習スピーチ	グループディスカッション						③配点比率
	1 定期試験	○								20 %
2 小テスト										0 %
3 提出物	○									20 %
4 発表・実技・プレゼン			○	○						20 %
5 受講態度			○	○						10 %
6 自主学習態度	○									30 %
7 その他										0 %
④ルーブリック評価	取り入れていない								比率合計	100 %
⑤課題等に対するフィードバックの方法	小論文については添削して返却。面接練習スピーチ、グループディスカッションは授業時に随時コメントする。成績評価に対する問い合わせは個別に応じる。									
IV その他										
参考図書の※は購入すると試験に役立つ。Google クラスルームを使用する。										

I 科目に関する項目										
①科目名	特別演習 J (乳幼児のあそびと健康教育) Special Seminar and Research J					②科目コード	Y6-3B010			
③担当教員名	打越 みゆき									
④実務経験						⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	後期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	乳幼児のあそびと健康教育									
②授業の概要	本科で触れることのできなかった乳幼児のあそびと健康教育を中心にしながら、自然観察や伝統あそび・民俗舞踊の技能の習得、学外での学習も取り入れていく。また、子ども自身があそびの面白さや健康・安全を意識できるようなポイントをノートにまとめていく。									
③履修者の到達目標(学習成果)	1. 乳幼児の様々な遊びを実践できるようになる。 2. 文献資料や DVD 資料などから、乳幼児のあそびと健康教育の重要ポイントをまとめることができる。									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能			③共感性	④コミュニケーション		⑤協働性		
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業			ディスカッション・ディベート					
	グループワーク	プレゼンテーション			実習・フィールドワーク					
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業				グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援				○	
⑦授業の計画(授業の内容)										
第1回	ガイダンス・自然観察あそび(学内)			実践(授業の進め方、Google classroom の活用法、評価方法についても説明します)						
第2回	乳幼児のあそび 発表									
第3回	園外保育を想定した自然観察あそび			実践						
第4回	表現あそび(布を使った表現)									
第5回	運動会の表現(民俗舞踊)			映像による学習と体験						
第6回	伝承あそびの良さ			理論						
第7回	伝承あそびの習得・けん玉			練習						
第8回	伝承あそびの習得・けん玉			検定						
第9回	伝承あそびの習得・お手玉			練習						
第10回	伝承あそびの習得・お手玉			検定						
第11回	伝承あそびの習得・あやとり			検定						
第12回	伝承あそびの習得・コマ			練習						
第13回	伝承あそびの習得・コマ			検定						
第14回	季節のあそび(クリスマス・正月のあそび)									
第15回	発達に即した巧技台のあそび(学外)									
定期試験	実施しない(授業課題のみ)									
⑧自主学習の課題	予習: 約 10 分間の学習時間を要する。(興味を持ったことについて調べる) 復習: 約 30 分間の学習時間を要する。(ノートまとめ、課題練習)									
⑨テキスト	適宜プリントを使用									
⑩参考書/参考資料/準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	なし									
⑫履修条件/履修上の注意事項	たくさん体を動かすので、運動しやすい格好で出席すること(ミニスカート、ショートパンツ、肌の露出が大きい服は不可)。 自宅学習が必要な状況となった場合には、オンデマンド型の授業動画および課題を Google classroom より配信する予定である。 巧技台は外部のイベントに参加予定(交通費は自己負担)。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目	様々なあそびの実践	様々な遊びのまとめ							③配点比率	
②評価方法										
1 定期試験									0	%
2 小テスト									0	%
3 提出物		○							40	%
4 発表・実技・プレゼン	○								50	%
5 受講態度	○								5	%
6 自主学習態度	○	○							5	%
7 その他										%
④ルーブリック評価	取り入れていない							比率合計	100	%
⑤課題等に対するフィードバックの方法	随時、Google classroom よりコメントする。 検定については、その場でコメントする。									
IV その他										
<ul style="list-style-type: none"> ・ノートは「保育内容の指導法・健康」の続きを使用してもよい。ルーズリーフ不可。 ・Google classroom を使用する。 ・(科目等履修生の状況も含め)受講者数、天候等によって内容の変更がある。 										

I 科目に関する項目										
①科目名	特別演習 K Special Seminar and Research K					②科目コード	Y6-3B011			
③担当教員名	大井 美緒									
④実務経験	幼稚園教諭 (15年)					⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	前期	⑧単位 (時間数)	1単位 (30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	子ども主体の保育の理解と振り返りの方法									
②授業の概要	幼稚園教諭としての勤務経験を持つ教員が担当する。子ども理解や援助、造形表現や遊び等、子ども主体の保育を展開していくための知識や技術について、事例検討および実践を通して学ぶ。									
③履修者の到達目標 (学習成果)	1 [関心・意欲・態度] 子ども主体の保育に関心を持ち、保育のあり方について探求することができる。 2 [思考・判断・表現] 子ども主体の保育の展開の仕方について考察し、設定保育の中ではどのような配慮等が必要か自分の意見を述べるができる。 3 [技能] 保育指導案の作成や振り返りに必要な情報を選択し可視化することができる。 4 [知識・理解] 子ども主体の保育を展開することの重要性について理解し、説明することができる。									
④ディプロマポリシー (DP) との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業		ディスカッション・ディベート	○				
	グループワーク	○	プレゼンテーション	○	実習・フィールドワーク					
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			グループクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			○			
⑦授業の計画 (授業の内容)										
第1回	授業の概要と進め方について									
第2回	保育者の意図的な環境について									
第3回	園外保育について①グループ討議									
第4回	園外保育について②立案									
第5回	園外保育について③役割と準備									
第6回	園外保育の実際									
第7回	園外保育の振り返り									
第8回	保育の振り返りについて①ドキュメンテーションとは									
第9回	保育の振り返りについて②ドキュメンテーション作成									
第10回	保育の振り返りについて③ドキュメンテーション発表									
第11回	幼児の遊び①夢中になることとは									
第12回	幼児の遊び②集団での遊び									
第13回	行事と遊びの関係									
第14回	遊びの環境と援助について									
第15回	子ども主体の保育とは									
定期試験	実施しない									
⑧自主学習の課題	予習：各授業回のテーマについて、保育雑誌等で実際に現場でどのようなことが行われているのか調べる。予習には約30分の時間を要する。 復習：各授業回において、提示された課題に取り組む。復習には約30分間の学習時間を要する。									
⑨テキスト	授業時に資料を随時提示する。									
⑩参考書 / 参考資料 / 準備物等	部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	製作物や見学等に関する費用については、各自の負担とする。									
⑫履修条件 / 履修上の注意事項	・やむを得ず欠席した場合は、翌週の授業の前日までに担当教員の研究室まで授業資料等を取りに来て、予習・復習に取り組むこと。 ・グループワークでは、主体的に参加し自分の意見を述べることを。また、他者の意見を尊重し対話をしながら進めていくこと。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解				③配点比率	
1	定期試験									%
2	小テスト									%
3	提出物	○	○	○	○			50		%
4	発表・実技・プレゼン	○	○	○	○			30		%
5	受講態度	○	○	○	○			10		%
6	自主学習態度	○	○	○	○			10		%
7	その他									%
④ルーブリック評価	取り入れている					比率合計		100		%
⑤課題等に対するフィードバックの方法	成績評価に対する問い合わせは個別に応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	特別演習 M Special Seminar and Research M				②科目コード	Y6-3B013				
③担当教員名	服部 純一									
④実務経験	特別支援学校・特別支援学級教諭(16年)、越谷市立教育相談室長(6年)、特別支援学級設置小学校教頭・校長(14年)				⑤担当形態	単独				
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	前期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許			保育士資格			発達障がい児保育 BP 修了		
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	発達障がい児の教育臨床(幼稚園・保育園・学校における特別な教育支援その1 基礎編)									
②授業の概要	来学する数名の発達障がい児への実際の教育支援を通して「個別の支援計画」の立て方や、支援計画を基に具体的な発達支援・学習支援のための教材づくり、支援のための基本的な方法を、臨床研究として実践的に学習する。特に、特別支援教育や障がい児保育、療育を志す学生については、ケースから学ぶ方法や教育者・保育者・療育者として求められる実践的な力を身につけられるアクティブラーニング形式の授業にしたい。指導者は1980年代に日本に個別の教育計画を概念を紹介し、埼玉県の特設支援教育課程編成要領の策定にも関わってきた経験から、個別の支援計画の立案から活用に至る具体的な方法を、個々の子どもの課題に合わせて立案し実践する保応報を指導する。教材の選択、教具の作成、支援の方法と評価、支援計画の修正などを実践的に学び、特別支援教育や療育に携わる支援者としての基礎的な技能を養う。									
③履修者の到達目標(学習成果)	1. 特別支援教育や発達支援などの療育活動に対する支援者としての基本的な知識が理解できる。 2. 教育相談として定期的に来学する数名の発達障がい児に対し、担当教員の指導の下で学習支援や療育活動ができるようになる。 3. 特別な支援計画を立てるポイントを把握し、数名の発達障がい児への臨床活動を通して適切な支援や評価が行えるようになる。 4. 特別な教育支援計画に沿った支援を展開するための、合理的な教材・教具の工夫ができるようになる。									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業		ディスカッション・ディベート					
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業				グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援				○	
⑦授業の計画(授業の内容)										
第1回	初回ガイダンス(特別演習を通して学ぶ内容や発達支援・特別教育支援の基本的な考え方の説明)									
第2回	臨床研究に関する打ち合わせ(来学するケースの紹介と臨床担当者の調整。バックアップする学生の役割の説明と教材づくりについて)									
第3回	ケース研究A(発達障がいによる学習障がいの特性のある小学生)への学習課題の把握と支援セッションへの試行。									
第4回	ケース研究B(ADHDと診断された小学生)への学習課題の把握と支援セッションへの試行。									
第5回	ケース研究C(発達障害から不登校傾向にある小学生)への学習課題の把握と支援セッションへの試行。									
第6回	ケース研究Aへの学習支援セッション。(指導課題の把握、教材の選択、指導方法の研究を中心に)									
第7回	ケース研究Bへの学習支援セッション。(指導課題の把握、教材の選択、指導方法の研究を中心に)									
第8回	ケース研究Cへの学習支援セッション。(指導課題の把握、教材の選択、指導方法の研究を中心に)									
第9回	ケース研究Aへの学習支援セッション。(個別に支援計画立案への試行を中心に)									
第10回	オンデマンドによる基礎学習:特別な教育支援ニーズへの課題把握と支援方法の検討。(同テーマの資料による学習・課題提出も可)									
第11回	オンデマンドによる基礎学習:特別な教育支援計画の立案のポイント(同テーマの資料による学習・課題提出も可)									
第12回	ケース研究Bへの学習支援セッション。(個別に支援計画立案への試行を中心に)									
第13回	ケース研究Cへの学習支援セッション。(個別に支援計画立案への試行を中心に)									
第14回	ワークショップ:ケースA・B・Cそれぞれへの個別の支援計画の作成									
第15回	まとめの講義									
定期試験	レポート課題の提出。特別な教育支援のありかたについて(個別の支援プランA・Bと支援セッションの活動計画提出)									
⑧自主学習の課題	予習:各授業回において、文献や資料を配布する。ケースの発達特性を分析し、発達を支援するための方策や教材を考えて、何をどのように支援するかを考えて授業(臨床研究)に臨む。予習には教材研究を含め約90分の学習時間を要する。 復習:各授業回において、復習事項を提示する。復習事項について、当日の資料や実践記録からノートにまとめておく。復習には約60分の学習時間を要する。									
⑨テキスト	授業の開始時に参考文献の一覧を配布する。									
⑩参考書/参考資料/準備物等	参考書や資料は随時紹介する。臨床研究には、教材や教具の工夫を指導するので、次回実践までにその準備をする。									
⑪教材費	なし。但し、自作の教材への材料費は自己負担。									
⑫履修条件/履修上の注意事項	臨床研究はケースの児童1名につき学生1~2名で担当する。当日の担当にならない学生は観察・記録・援助者となる。定員は8名まで。特別演習MとNのセットで受講されることを勧めるが、定員以内ならMのみの受講も可とする。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	特別な教育支援の理解	個別の療育的支援	子どもへの支援と評価	教材・教具の工夫			③配点比率		
1	定期試験(課題提出)	○	○	○	○			20	%	
2	小テスト							0	%	
3	提出物(授業セッションへの計画)	○	○	○	○			40	%	
4	発表・実技・プレゼン	○	○	○	○			20	%	
5	受講態度	○	○	○	○			10	%	
6	自主学習態度	○	○	○	○			10	%	
7	その他								%	
④ルーブリック評価	取り入れている							比率合計	100	%
⑤課題等に対するフィードバックの方法	・提出物(個別の支援計画や教材・教具の工夫)については授業内で講評を行う。 ・定期試験および最終成績評価については、問い合わせがある場合に応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	特別演習 N Special Seminar and Research N				②科目コード	Y6-3B014				
③担当教員名	服部 純一									
④実務経験	特別支援学校・特別支援学級教諭(16年)、越谷市立教育相談室長(6年)、特別支援学級設置小学校教頭・校長(14年)				⑤担当形態	単独				
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	後期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許	保育士資格		発達障がい児保育BP修了					
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	教育臨床（インクルーシブな保育・教育現場での特別な支援と支援の連携）									
②授業の概要	特別支援学校・学級の教員、教育委員会の教育相談室長、特別支援学級設置小学校の校長経験を活かし、具体的な発達支援と特別支援教育で必要とされる実践的な支援法を臨床研究として展開する。本授業では、特別支援教育や障がい児保育、療育について、教育相談として来学するケースに対し、個別の支援計画を立てながら、臨床的に発達支援を実施する方法をアクティブラーニング形式で学ぶ。特にNでは、学校との連携、放課後デイサービスとの連携、医療機関との連携をケースを通して具体的に試みる。ケースへの個別支援だけでなく、保護者の気持ちの寄り添った支援や子どもを取り巻く支援資源を把握した総合的な支援計画を検討し、インクルーシブな保育・教育現場での特別な支援の実践のしかたについて、具体的に学べる体験的な授業にしていく。									
③履修者の到達目標(学習成果)	<ol style="list-style-type: none"> 1. インクルーシブな保育・教育環境をつくるための特別な支援の方法や知識が理解できる。 2. 発達障がいの児童や幼児に必要なとされる保育・教育環境が理解でき、子どもにとって必要な個別支援計画を作成し中間修正が考えられる。 3. 担当教員の指導の下での学習支援や療育活動の中で、適切な教材・教具の工夫ができる。 4. 療育活動を通して、子どもを取り巻く関係者への連携の取り方が工夫でき、インクルーシブな保育・教育が行えるようになる。 									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	ディスカッション・ディベート							
⑥ICT機器による授業や支援	グループワーク	○	プレゼンテーション	実習・フィールドワーク		○				
⑦授業の計画(授業の内容)	パソコン・タブレット端末による双方向授業 ゲーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援 ○									
⑧授業の計画(授業の内容)	第1回 初回ガイダンス(後期の授業におけるケースへの臨床研究と連携先とのかかわり方についての基礎知識) 第2回 ケース研究A(発達障がいによる学習障がいの特性のある小学生)への学習支援セッション。支援課題の確認とMで立てた計画の修正。 第3回 ケース研究B(ADHDと診断された小学生)への発達支援セッション。支援課題の確認とMで立てた計画の修正。 第4回 ケース研究C(発達障害から不登校傾向にある小学生)への特別支援セッション。支援課題の確認とMで立てた計画の修正。 第5回 ケース研究A:特別支援セッションでの指導課題の検討と教材・指導手順の工夫の検討。 第6回 ケース研究B:特別支援セッションでの指導課題の検討と教材・指導手順の工夫の検討。 第7回 ケース研究C:特別支援セッションでの指導課題の検討と教材・指導手順の工夫の検討。 第8回 講義:学校・保護者への支援と個別の支援計画の立て方 第9回 ケース研究A:発達支援セッションプログラムの確認と小学校への中間レポートの下書き。 第10回 ケース研究B:発達支援セッションプログラムの確認と小学校への中間レポートの下書き。 第11回 ケース研究C:発達支援セッションプログラムの確認と小学校への中間レポートの下書き。 第12回 ケース研究A:小学校や放課後デイサービスと医療機関との連携についてのレポート提出に向けた学習支援。 第13回 ケース研究B:小学校や放課後デイサービスと医療機関との連携についてのレポート提出に向けた学習支援。 第14回 ケース研究C:小学校や放課後デイサービスと医療機関との連携についてのレポート提出に向けた学習支援。 第15回 まとめ:インクルーシブな保育・教育に向けた教育・保育現場の特徴と連携を拓ける支援のあり方について									
定期試験	レポート課題									
⑧自主学習の課題	予習:各授業回において、文献や資料を配布する。ケースの発達特性を分析し、発達を支援するための方策や教材を考えて、何をどのように支援するかを考えて授業(臨床研究)に臨む。予習には教材研究を含め約90分の学習時間を要する。 復習:各授業回において、復習事項を提示する。復習事項について、当日の資料や実践記録からノートにまとめておく。 復習には約60分の学習時間を要する。									
⑨テキスト	授業の開始時に参考文献の一覧を配布する。									
⑩参考書/参考資料/準備物等	参考書や資料は随時紹介する。臨床研究には、教材や教具の工夫を指導するので、次回実践までにその準備をする。									
⑪教材費	なし。 但し、自作の教材への材料費は自己負担。									
⑫履修条件/履修上の注意事項	臨床研究はケースの児童1名につき学生1~2名で担当する。当日の担当にならない学生は観察・記録・援助者となる。 定員は8名まで。特別演習MとNのセットで受講されることを勧めるが、定員以内ならNのみの受講も可とする。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	インクルーシブ教育への理解	個別の支援計画の中間修正	教材・教具の工夫	連携への知識	③配点比率				
1	定期試験	○	○	○	○	20	%			
2	小テスト					0	%			
3	提出物	○	○	○	○	40	%			
4	発表・実技・プレゼン	○	○	○	○	20	%			
5	受講態度	○	○	○	○	10	%			
6	自主学習態度	○	○	○	○	10	%			
7	その他						%			
④ルーブリック評価	取り入れている				比率合計		100	%		
⑤課題等に対するフィードバックの方法	・提出物(個別の支援計画や教材・教具の工夫)については授業内で講評を行う。 ・定期試験および最終成績評価については、問い合わせがある場合に応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	特別演習 Q Special Seminar and Research Q					②科目コード	Y6-3B017			
③担当教員名	竹森 亜美									
④実務経験	臨床心理士（11年）・公認心理師（6年）					⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	前期	⑧単位（時間数）	1単位（30）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許	保育士資格		発達障がい児保育BP修了					
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	幼児期・学齢期における療育プログラムの計画と実施									
②授業の概要	臨床心理士・公認心理師として、発達障がい・知的障がい児への療育や心理臨床の実践経験を活かし、具体的な支援事例を想定した実践的な授業を展開する。模擬療育を実施しながら、障がいを持つ子どもに行う療育支援プログラムについてアクティブラーニング形式で学ぶ。特に、自立活動を踏まえた療育指導及び教材作成を行い、実践する技術を養う。									
③履修者の到達目標（学習成果）	1. 特別支援教育における自立活動の概念について知り、療育プログラムに反映することができる。 2. 療育プログラムの遂行を共有する計画書を作成し、これに従って模擬療育を実施することができる。 3. 他者が行っている療育を見て、専門的見地から評価・コメントし、それらを療育ノートにまとめることができる。									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	ディスカッション・ディベート	○						
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業	ゲーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			○					
⑦授業の計画（授業の内容）										
第1回	イントロダクション									
第2回	発達を促す療育									
第3回	様々な療育的アプローチ（1）									
第4回	様々な療育的アプローチ（2）									
第5回	療育機関について調べよう									
第6回	Stage I の教材を作って体験しよう									
第7回	Stage II の教材を作って体験しよう									
第8回	Stage III-1 の教材を作って体験しよう									
第9回	Stage III-2 の教材を作って体験しよう									
第10回	Stage IV の教材を作って体験しよう									
第11回	模擬療育説明+グループ分け									
第12回	模擬療育作成									
第13回	模擬療育作成									
第14回	模擬療育発表									
第15回	まとめ（アセスメントに基づく療育）									
定期試験	発表・実技で評価するため、実施しない。									
⑧自主学習の課題	予習：模擬療育で担当する教材について事前に調べること。 復習：実施した模擬療育のまとめノートを作成すること。 ※予習・復習ともに各30分程度の時間を要する。									
⑨テキスト	授業時に随時提示する。									
⑩参考書／参考資料／準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	実習費、教材費用：模擬療育で使用する教材費は、各自捻出すること。									
⑫履修条件／履修上の注意事項	上の注意事項 履修条件：特になし 履修上の注意事項：特になし その他：模擬療育では、参加者全員の前で発表を行うため、そうしたことに過度な心理的負担が生じる場合には受講しないことがのぞましい。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目	自立活動の理解	療育プログラム計画書の作成	模擬療育の実施	療育ノート	③配点比率					
②評価方法										
1 定期試験									%	
2 小テスト									%	
3 提出物	○	○		○			50		%	
4 発表・実技・プレゼン	○	○	○				40		%	
5 受講態度	○	○	○				5		%	
6 自主学習態度	○	○	○	○			5		%	
7 その他									%	
④ルーブリック評価	発表（実技）における評価についてはルーブリック評価を活用する。				比率合計		100		%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	成績評価に対する問い合わせには個別に応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	特別演習 R Special Seminar and Research R					②科目コード	Y6-3B018			
③担当教員名	竹森 亜美									
④実務経験	臨床心理士（11年）・公認心理師（6年）					⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	後期	⑧単位（時間数）	1単位（30）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許	保育士資格		発達障がい児保育BP修了					
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	保護者支援									
②授業の概要	臨床心理士・公認心理師として、保護者との教育相談や巡回相談の実践経験を活かし、具体的な実践を想定した授業を展開する。保護者が抱える悩み・不安、期待について理解し、保護者理解の観点をアクティブラーニング形式で学ぶ。 また、対人援助を行う上で支援者がどのように保護者と関わるといふか、ペアワーク等の実践を通して体験的に理解し、保護者と良好な関係を構築するための基礎的な力を養う。									
③履修者の到達目標（学習成果）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保護者が抱えるさまざまな感情・悩みを知り、保護者に寄り添った対応をすることができる。 2. 保護者を理解するための観点を知り、どのような行動に着目すべきか表現することができる。 3. 保護者の様子を見立てる視点を知り、所見や記録に反映することができる。 4. 自己理解を深め、対人援助サービスを実施する上での自身の強みと課題を理解し、言葉で表現することができる。 									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	ディスカッション・ディベート							
	グループワーク	プレゼンテーション	○	実習・フィールドワーク						
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			○			
⑦授業の計画（授業の内容）										
第1回	発達臨床領域における保護者支援									
第2回	保護者が抱えるさまざまな悩み									
第3回	保護者相談に必要なコミュニケーション									
第4回	ストレスマネジメントを学ぶ									
第5回	アンガーマネジメントを学ぶ									
第6回	ペアレント・トレーニングを学ぶ①									
第7回	ペアレント・トレーニングを学ぶ②									
第8回	保護者相談①：相談の枠組みを作る									
第9回	保護者相談②：相手を労う									
第10回	保護者相談③：相手の話を傾聴する									
第11回	保護者相談④：相手に伝わりやすい工夫									
第12回	保護者相談⑤：わからない時にどうするか									
第13回	保護者相談⑥：困難事例への対処									
第14回	対人援助職に求められるセルフケア									
第15回	まとめ									
定期試験	授業内の実践・実技にて評価する									
⑧自主学習の課題	予習：授業時に配布する参考資料等に目を通しておくこと。 復習：保護者を支援するために必要な工夫について記録すること。 ※予習・復習それぞれに各30分の時間を要する。									
⑨テキスト	授業時に随時提示する。									
⑩参考書／参考資料／準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	特に必要なし									
⑫履修条件／履修上の注意事項	履修条件：特になし 履修上の注意事項：特になし その他：保護者対応を習得するために、多くの回でペアワーク（模擬面接等）を行う。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	保護者の理解	行動観察	観察記録	自己理解	③配点比率				
	1 定期試験									%
2 小テスト										%
3 提出物				○	○		50			%
4 発表・実技・プレゼン	○	○	○	○	○		40			%
5 受講態度	○	○	○	○	○		5			%
6 自主学習態度	○	○	○	○	○		5			%
7 その他										%
④ルーブリック評価	取り入れていない					比率合計	100			%
⑤課題等に対するフィードバックの方法	成績評価に対する問い合わせは個別に応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目											
①科目名	特別演習 T Special Seminar and Research T					②科目コード	Y6-3B020				
③担当教員名	坂本 真季										
④実務経験	公認心理師・臨床発達心理士					⑤担当形態	単独				
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	後期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択	
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		発達障がい児保育 BP 修了				
⑫教職課程											
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目										
II 授業内容に関する項目											
①テーマ	行動分析による発達支援の技法										
②授業の概要	行動分析学は心理学の中でも学習心理学という領域に分類される学問である。「私たちはなぜその行動をするのか」「なぜある行動をしないのか」「ある行動は長続きするのに、別の行動はなぜ長続きしないのか」「同じような状況に置かれても、なぜ人によってやる違うのか」など、行動の『なぜ?』を科学的に理解し解明する。授業では、事例を通じて行動分析学に関する基礎的な知識を得ることを目標とする。										
③履修者の到達目標(学習成果)	1. 日常生活で生じるさまざまな事象に対し、機能分析を用い、原因・行動・結果を整理することができるようになる。 2. 人の行動を理解し、社会的な問題の解決に応用できるようになる。										
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性						
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業		ディスカッション・ディベート		○				
	グループワーク	○	プレゼンテーション		実習・フィールドワーク						
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援							○
⑦授業の計画(授業の内容)											
第1回	ガイダンス										
第2回	好子出現による強化①(事例:祖父の発話)										
第3回	好子出現による強化②(事例:チューインガムとお通じ)										
第4回	嫌子消失による強化①(事例:恐怖の診察室)										
第5回	嫌子消失による強化②(事例:自閉スペクトラム症のAくん)										
第6回	嫌子出現による弱化①(事例:歯ぎしり)										
第7回	嫌子出現による弱化②(事例:習慣逆転法)										
第8回	好子消失による弱化①(事例:とあるクラスの良い子ゲーム)										
第9回	好子消失による弱化②(事例:タイムアウトと母の喜び)										
第10回	消去と復帰①(事例:招かれざる訪問)										
第11回	消去と復帰②(事例:Bくんの癩癩)										
第12回	分化強化と分化弱化①(事例:負けっぱなしのテニス部)										
第13回	分化強化と分化弱化②(事例:創造的行動)										
第14回	シェイピング(事例:子どもにメガネをかけさせよう)										
第15回	強化スケジュール(事例:迷信行動)										
定期試験	実施する(レポート課題)										
⑧自主学習の課題	予習:約15分間の学習時間を要する。予習事項は、各授業で提示する。 予習:約15分間の学習時間を要する。授業内で配布した資料を読み、大切なポイントを押さえる。										
⑨テキスト	なし										
⑩参考書/参考資料/準備物等	杉山尚子・島宗理・佐藤方哉・マロット&マロット『行動分析学入門(第2版)』産業図書、2023年 吉野智富美・吉野俊彦『プログラム学習で学ぶ行動分析学ワークブック』学苑社、2016年										
⑪教材費	なし										
⑫履修条件/履修上の注意事項	・英語論文を紹介する機会があるが、論文原本とともに抄訳を示すので英文読解に自信がなくとも安心して受講できる。 ・授業時間外の学習や発展的な学習に資するために、追加的な資料や参考文献の紹介・配布が行われる場合がある。 ・連絡事項は Goole classroom で伝えるため、必ず classroom に登録すること。また、classroom から提示される課題に取り組むことで出席が認められる授業回もある。出席するだけでなく、出された課題には必ず取り組み、提出すること。										
III 学習項目と評価方法・配点比率											
①学習項目		機能分析	課題分析	児童・生徒のアセスメント					③配点比率		
②評価方法											
1	定期試験	○	○	○					50	%	
2	小テスト								0	%	
3	提出物	○	○	○					20	%	
4	発表・実技・プレゼン	○	○	○					20	%	
5	受講態度	○	○	○					10	%	
6	自主学習態度								0	%	
7	その他								0	%	
④ルーブリック評価	取り入れていない							比率合計	100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	・授業ごとの小課題については、授業内でフィードバックする。 ・最終レポートの最終成績評価については、問い合わせがある場合に応じる。										
IV その他											

I 科目に関する項目										
①科目名	特別演習 U Special Seminar and Research U				②科目コード	Y6-3B021				
③担当教員名	野口 祐里									
④実務経験	保育士（11年）、幼稚園教諭、特別支援学校教諭、ナチュラル・アプローチによる手話教育の技法を習得				⑤担当形態	単独				
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	前期	⑧単位（時間数）	1単位（30）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許	保育士資格		発達障がい児保育BP修了					
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	日本手話の表現を学び簡単な会話を楽しむ。手話やろう者についての知識・理解を深めていく。（基礎）									
②授業の概要	保育士、ろう学校の乳幼児教育相談の相談員として保育現場に従事、また手話指導に携わってきた教師が本講座を担当する。本講義では、日本手話・初級編の語学講義。パワーポイントや映像資料など視覚的教材も使用しながら、手話を通して、コミュニケーションを図る双方向のやりとりを進める。豊かな表現力を持ち合わせた手話を通して、コミュニケーション能力を磨き、基本的な自己紹介、日常会話を表現できる力を身につける。また、保育の実践場面を想定し、保育に纏わる手話表現や、取り組み、支援方法なども含めたろう者の社会的背景などを学ぶ。その他、関連分野のゲストスピーカーを招き、習得した知識の幅を広げる。（予定）									
③履修者の到達目標（学習成果）	【関心・意欲・態度】手話学習に対し、講義内の参加・態度・手話による発言（表出）など、積極的に取り組むことができる。 【思考・判断・表現】ろう者・難聴者を取り巻く環境を学び、様々なコミュニケーション方法や支援についての知識を身につける。ろう者に会った時の適切な対応方法や配慮について、実践することができる。 【技能】自己紹介や日常生活に関する表現を身につけ、手話での簡単な会話ができる。 【意識・理解】日本手話の構造、ろう文化と聴文化の違いを学び、簡単な説明ができる。									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	ディスカッション・ディベート							
⑥ ICT 機器による授業や支援	グループワーク	プレゼンテーション	実習・フィールドワーク							
⑦授業の計画（授業の内容）	パソコン・タブレット端末による双方向授業									
⑧授業の計画（授業の内容）	グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援									
⑧自主学習の課題	予習：次回の内容に関連する事項を調べたり、テキストを用いて課題に取り組む。約30分間の時間を要する。復習：講義内容に踏まえてグーグルクラスルームにて、復習用、自主学習用の動画を見て復習を行う。また、グーグルクラスルームからの課題に取り組むこと。約30分間の時間を要する。									
⑨テキスト	前川和美・下谷奈津子・平英司、「仕組みが身につく手話1」（DVD付き）、白水社、2022年									
⑩参考書／参考資料／準備物等	【参考書】松岡和美、「わくわく！納得！手話トーク」、くろしお出版、2021年 バイリンガル・バイカルチュラルろう教育センター、「聞こえなくても大丈夫！人工内耳の手話も」、ココ出版、2022年 【準備物】透明マスク（推奨：ルカミィ／栄商会、顔がみえマスク／ユニチャーム） 手話は手のみではなく表情、口形にとっても大切な役割があります。そのため、表情が見えるようこの講義の中では毎回透明マスクを持参し、使用してください。									
⑪教材費	なし									
⑫履修条件／履修上の注意事項	・受講は15名以内に人数を制限する（希望者多数の場合は、GPA上位者が優先される）。 ・本科目のグーグルクラスルームに参加すること。 ・やむを得ず欠席した場合は、グーグルクラスルームで課題を確認し、復習・予習事項に自ら取り組むこと。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目	関心・意欲・態度	思考・判断	表現・技能	知識・理解	③配点比率					
②評価方法										
1 定期試験		○	○	○			20	%		
2 小テスト			○				10	%		
3 提出物	○	○		○			15	%		
4 発表・実技・プレゼン							0	%		
5 受講態度	○		○				40	%		
6 自主学習態度	○	○	○	○			15	%		
7 その他							0	%		
④ルーブリック評価	取り入れていない				比率合計	100 %				
⑤課題等に対するフィードバックの方法	・リアクションペーパーを用いて、講義内での疑問や、学びを進める中で生じた不明点にコメントする。 ・定期試験に関しては、問い合わせがある場合に応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	特別演習 V Special Seminar and Research V				②科目コード	Y6-3B022				
③担当教員名	野口 祐里									
④実務経験	保育士（11年）、幼稚園教諭、特別支援学校教諭、ナチュラル・アプローチによる手話教育の技法を習得				⑤担当形態	単独				
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	後期	⑧単位（時間数）	1単位（30）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許	保育士資格		発達障がい児保育BP修了					
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	日本手話の表現を学び簡単な会話を楽しむ。手話やろう者についての知識・理解を深めていく。（応用）									
②授業の概要	保育士、ろう学校の乳幼児教育相談の相談員として保育現場に従事、また手話指導に携わってきた教師が本講座を担当する。本講義では、日本手話・初級編の語学講義。パワーポイントや映像資料など視覚的教材も使用しながら、手話を通して、コミュニケーションを図る双方向的やりとりを進める。豊かな表現力を持ち合わせた手話を通して、コミュニケーション能力を磨き、基本的な自己紹介、日常会話を表現できる力を身につける。また、保育の実践場面を想定し、保育に纏わる手話表現や、取り組み、支援方法なども含めたろう者の社会的背景などを学ぶ。その他、関連分野のゲストスピーカーを招き、習得した知識の幅を広げる。（予定）									
③履修者の到達目標（学習成果）	【関心・意欲・態度】手話学習に対し、講義内の参加・態度・手話による発言（表出）など、積極的に取り組むことができる。 【思考・判断・表現】ろう者・難聴者を取り巻く環境を学び、様々なコミュニケーション方法や支援についての知識を身につける。ろう者に出会った時の適切な対応方法や配慮について、実践することができる。 【技能】自己紹介や日常生活に関する表現を身につけ、手話での簡単な会話ができる。 【意識・理解】日本手話の構造、ろう文化と聴文化の違いを学び、簡単な説明ができる。									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	ディスカッション・ディベート							
⑥ ICT 機器による授業や支援	グループワーク	○	プレゼンテーション	実習・フィールドワーク						
⑦授業の計画（授業の内容）	パソコン・タブレット端末による双方向授業									
⑧ Google Classroom 等による学習状況の把握と自主学習支援	○									
⑦授業の計画（授業の内容）	第1回 前期の復習・後期ガイダンス（手話通訳あり）									
⑦授業の計画（授業の内容）	第2回 夏休みの日の過ごし方などを手話で表現する									
⑦授業の計画（授業の内容）	第3回 電車や駅場所に関する手話表現を学ぶ									
⑦授業の計画（授業の内容）	第4回 手話で自己紹介をする（応用）									
⑦授業の計画（授業の内容）	第5回 ゲストスピーカーによる講演①									
⑦授業の計画（授業の内容）	第6回 手話の質問文の表現を学ぶ									
⑦授業の計画（授業の内容）	第7回 手話の質問文を用いた会話を練習する									
⑦授業の計画（授業の内容）	第8回 手話の疑問文の表現を学ぶ									
⑦授業の計画（授業の内容）	第9回 手話の疑問文を用いた会話を練習する									
⑦授業の計画（授業の内容）	第10回 ゲストスピーカーによる講演②									
⑦授業の計画（授業の内容）	第11回 イベントに関する手話を学ぶ									
⑦授業の計画（授業の内容）	第12回 手話イベントの計画をする・手話での出し物の練習をする									
⑦授業の計画（授業の内容）	第13回 手話のイベントの実施									
⑦授業の計画（授業の内容）	第14回 後期の復習									
⑦授業の計画（授業の内容）	第15回 まとめと振り返り									
⑦授業の計画（授業の内容）	定期試験 実施する（実技試験・レポート）									
⑧自主学習の課題	予習：次回の内容に関連する事項を調べたり、テキストを用いて課題に取り組む。約30分間の時間を要する。 復習：講義内容に踏まえてGoogle Classroomにて、復習用、自主学習用の動画を見て復習を行う。また、Google Classroomからの課題に取り組むこと。約30分間の時間を要する。									
⑨テキスト	前川和美・下谷奈津子・平英司、「仕組みが身につく手話1」（DVD付き）、白水社、2022年									
⑩参考書／参考資料／準備物等	【参考書】松岡和美、「わくわく！納得！手話トーク」、くろしお出版、2021年 バイリンガル・バイカルチュラルろう教育センター、「聞こえなくても大丈夫！人工内耳の手話も」、ココ出版、2022年 【準備物】透明マスク（推奨：ルカミィ／栄商会、顔が見えマスク／ユニチャーム） 手話は手のみではなく表情、口形にとっても大切な役割があります。そのため、表情が見えるようこの講義の中では毎回透明マスクを持参し、使用してください									
⑪教材費										
⑫履修条件／履修上の注意事項	・受講は15名以内に人数を制限する（希望者多数の場合は、GPA上位者が優先される）。 ・特別演習Wを履修していること。 ・本科目のGoogle Classroomに参加すること。 ・やむを得ず欠席した場合は、Google Classroomで課題を確認し、復習・予習事項に自ら取り組むこと。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	関心・意欲・態度	思考・判断	表現・技能	知識・理解	③配点比率				
1	定期試験		○	○	○	20	%			
2	小テスト			○		10	%			
3	提出物	○	○		○	15	%			
4	発表・実技・プレゼン					0	%			
5	受講態度	○		○		40	%			
6	自主学習態度	○	○	○	○	15	%			
7	その他					0	%			
④ルーブリック評価	取り入れていない				比率合計	100	%			
⑤課題等に対するフィードバックの方法	・リアクションペーパーを用いて、講義内での疑問や、学びを進める中で生じた不明点にコメントする。 ・定期試験に関しては、問い合わせがある場合に応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	特別演習 W Special Seminar and Research W				②科目コード	Y6-3B023				
③担当教員名	森井 圭									
④実務経験	保育士、アートワークショップ講師、障がいを持つ人と乳幼児の場づくり				⑤担当形態	単独				
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	前期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格			発達障がい児保育BP修了		
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	造形表現を通して子どもの探求心、想像力、創造力を育む プロジェクト・アプローチの実践的理解									
②授業の概要	子どもの発想、主体性から子どもたちの学びを深めるアプローチを下記の点に留意し実践的に学びます。 ・日本、世界の優れた幼児教育のアプローチから学び、自らの“保育観”を広げる ・教師主導ではない、子どもたちの発想を主体に表現を深める造形活動を知る。 ・子どもの探求心、想像力、創造力を育むアプローチを実践的に理解を深める。 ・子どもの学びを通し、一過性ではない継続的な学びへと深化させるふりかえりの方法を学ぶ。 ・造形実践やフィールドワークで経験的・体験的に学ぶ。									
③履修者の到達目標(学習成果)	①プロジェクト・アプローチの概要、どのように実践するかの基礎を知る。 ②子どもたちが探求し、学ぶ気持ちを学生自身が感じ、経験する。 ③自らの学びを客観的に振り返り、共有することで、さらに学びを深める。									
④ディプロマブリシール(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	○	反転授業		ディスカッション・ディベート	○				
	グループワーク	○	プレゼンテーション	○	実習・フィールドワーク	○				
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			Google Classroom等による学習状況の把握と自主学習支援						
⑦授業の計画(授業の内容)										
第1回	到達目標と活動概要 学生との対話を通して授業内容を一緒に考える									
第2回	先進的な幼児教育① 日本のプロジェクトアプローチ 園での実践例から									
第3回	先進的な幼児教育② 世界のプロジェクトアプローチ イタリアレージョ・エミリアの実践例から									
第4回	プロジェクト実践：様々な粘土の特性から造形表現の可能性を学ぶ マイクロスコープでのご探求									
第5回	プロジェクト実践：様々な粘土の特性から造形表現の展開を学ぶ 粘土でのご造形									
第6回	プロジェクト実践：粘土の実践からドキュメンテーションを作成する ドキュメンテーション作成 学びのふりかえり									
第7回	フィールドワーク① 近所を自然散策「自然」をテーマにしたワーク実践 葉っぱのスタンドグラス 葉っぱの色遊び									
第8回	ワーク実践：絵の具で植物の色づくり さまざまな素材から色をつくる									
第9回	ポートフォリオ中間提出 対話とふりかえり 学外学習準備									
第10回	フィールドワーク② 学外学習 美術館もしくは意欲的な実践をする園に出かけます ※実施日は学生と相談の上調整									
第11回	プロジェクト実践：光と影あそび ～身近にある光と影探し&影絵をつくってみよう～									
第12回	プロジェクト実践：光と影あそび ～影絵でものがたりづくり&上演～									
第13回	プロジェクト実践をふりかえる(記録のまとめ方)									
第14回	自分の学び、気づきをポートフォリオにまとめる									
第15回	自分の学び、気づきをポートフォリオにまとめる									
定期試験	実施なし(提出物及びポートフォリオで評価)									
⑧自主学習の課題	ポートフォリオの作成と提出									
⑨テキスト	授業時に資料を配布									
⑩参考書/参考資料/準備物等	青木一永編著「つながる保育スタートBOOK ～プロジェクト・アプローチを通して探求を支える～」東洋館出版社 2022									
⑪教材費	1500円 フィールドワークに関わる交通費は個人負担とする。									
⑫履修条件/履修上の注意事項	定員10名 動きやすい、汚れても良い服装で参加する。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目		プロジェクトの理解	まとめ(ポートフォリオ)	③配点比率					
	探究的な学びの実践									
1	定期試験								%	
2	小テスト								%	
3	提出物	○	○	○			70		%	
4	発表・実技・プレゼン	○	○				5		%	
5	受講態度	○	○				20		%	
6	自主学習態度			○			5		%	
7	その他								%	
④ルーブリック評価	取り入れていない				比率合計	100			%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	授業内で提出作品に対するフィードバックを教員より、学生同士で実施									
IV その他										
写真撮影、アプリ使用に際し、携帯電話を用いる(スマートフォンが望ましいが、それ以外も可)。										

I 科目に関する項目										
①科目名	子どもの食と栄養 I Food and Nutrition for Children I					②科目コード	Y3-3A001			
③担当教員名	新澤 佳代									
④実務経験	管理栄養士					⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	前期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格	必修	発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【必修科目】(告示別表1による教科目) 保育の対象の理解に関する科目 子どもの食と栄養 (演習)									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	栄養に関する基本的知識と乳児期の食生活									
②授業の概要	管理栄養士の資格を持つ教員が担当する。子どもの食生活は、発育・発達の上でとても重要であり、将来の食習慣にまで影響を及ぼす。そのために、栄養素の種類や体内での働き、ライフステージ別の特徴や望ましい食生活について理解し、適切に指導できる能力を養う。グループワークや調理実習を適宜取り入れて実践を身につける。									
③履修者の到達目標(学習成果)	1. 栄養の基本的概念を理解し、各栄養素の働きと健康との関わりについて説明することができる。 2. 食生活の基本について理解し、説明することができる。 3. 乳児期の食生活の特徴について理解し、説明することができる。									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業		ディスカッション・ディベート					
	グループワーク	○	プレゼンテーション	○	実習・フィールドワーク	○				
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			ゲーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援						
⑦授業の計画(授業の内容)										
第1回	子どもの健康と食生活の意義・子どもの食生活の現状と課題									
第2回	栄養の基礎①栄養の基本的概念									
第3回	栄養の基礎②食べ物の消化と吸収									
第4回	栄養の基礎③エネルギーになる栄養素									
第5回	栄養の基礎④からだを作る栄養素									
第6回	栄養の基礎⑤ビタミン、ミネラル									
第7回	栄養の基礎⑥日本人の食事摂取基準・食事バランスガイドと食事									
第8回	栄養の基礎⑦献立作成と調理の基本									
第9回	食中毒について									
第10回	妊娠期・胎児期の栄養									
第11回	乳児期の栄養①乳汁期									
第12回	乳児期の栄養②離乳期									
第13回	乳児期の栄養③調乳と離乳食の調理実習									
第14回	乳児期の栄養④離乳食の調理実習									
第15回	まとめ									
定期試験	筆記試験を実施する									
⑧自主学習の課題	予習：授業内容に該当する教科書の部分を事前に読み、ポイントをつかんでおくこと。 調理実習では衛生面が重要となるので、各自で身支度や器具・食材の扱い方を確認しておくこと。 (約30分の学習時間を要する) 復習：授業で得た内容を振り返り、テキストや配布資料を読み直し、大切な点や調理の反省点などをまとめておくこと。 授業で示された課題の提出期限は厳守し、必ず提出すること。 (約30分間の学習時間を要する)									
⑨テキスト	青木三恵子編著『子どもの食と栄養「生きる力」を育むために』講談社									
⑩参考書/参考資料/準備物等	・『オールガイド食品成分表』実教出版 ・中村丁次著『楽しくわかる栄養学』羊土社 ・厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 ・文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 ・内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 ・その他、適宜授業で紹介する									
⑪教材費	教材費、材料費として2,000円									
⑫履修条件/履修上の注意事項	・調理実習の際はエプロン、三角巾(バンダナ)、マスク、ハンドタオル・上履き(実習靴)を準備し、身だしなみを整える。 (不適切なアクセサリーを外し、長い髪は束ね、爪を短く切りマニキュアは必ずとる。)									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	栄養に関する基本的知識	食生活の基本	乳児期の食生活					③配点比率	
1	定期試験	○	○	○					50	%
2	小テスト	○							10	%
3	提出物	○	○	○					25	%
4	発表・実技・プレゼン								0	%
5	受講態度	○	○	○					15	%
6	自主学習態度								0	%
7	その他								0	%
④ルーブリック評価	取り入れていない							比率合計	100	%
⑤課題等に対するフィードバックの方法	採点した課題等を授業内で返却、講評する。									
IV その他										
状況により、授業内容や授業計画の進行方法を変更する場合がある。										

I 科目に関する項目										
①科目名	子どもの食と栄養Ⅱ Food and Nutrition for Children Ⅱ					②科目コード	Y3-3A002			
③担当教員名	新澤 佳代									
④実務経験	管理栄養士					⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	後期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許	保育士資格	必修	発達障がい児保育BP修了					
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【必修科目】(告示別表1による教科目) 保育の対象の理解に関する科目 子どもの食と栄養(演習)									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	幼児期以降・特別な配慮を要する子どもの食生活と食育の実践									
②授業の概要	管理栄養士の資格をもつ教員が担当する。幼児期の心身の発達と食生活について理解し、望ましい食生活について考える。さらに、生涯発達と食生活について、家庭や児童福祉施設における食生活について、日本や世界の食文化について理解を深める。アレルギーなどの特別な配慮を要する子どもへの対応について理解する。適宜、ディスカッション・ディベート・グループワークを取り入れ、実践へと結び付ける。幼児期を対象とした調理実習や食育演習を行う。									
③履修者の到達目標(学習成果)	1. 幼児期の食生活の特徴を説明することができる。 2. 日本の食文化について理解し、望ましい食生活について説明できる。 3. 疾病、体調不良、食物アレルギー、障害のある子どもの特徴を理解し、対応方法を説明することができる。 4. 幼児を対象とした食育計画の立案、実践、評価をし、一連の食育実践を行うことができる。									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	ディスカッション・ディベート	○						
⑥ICT機器による授業や支援	グループワーク	○	プレゼンテーション	○	実習・フィールドワーク	○				
⑦授業の計画(授業の内容)	⑧ICT機器による授業や支援 双方向・タブレット端末による パソコン・タブレット端末による 対面授業 グーグルクラスルーム等による 学習状況の把握と自主学習支援									
第1回	幼児期の栄養①幼児期の発育発達と食生活									
第2回	幼児期の栄養②幼児期の食事の献立作成									
第3回	幼児期の栄養③調理実習									
第4回	学童期・思春期の食生活									
第5回	生涯発達と食生活									
第6回	家庭や児童福祉施設における食事を栄養									
第7回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養①疾病および体調不良の子どもへの対応									
第8回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養②食物アレルギーのある子どもへの対応									
第9回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養③障害のある子どもへの対応									
第10回	食文化①日本の食文化「和食」									
第11回	食文化②世界の食文化									
第12回	食育の基本と内容①食育の意義・目的と基本的考え方									
第13回	食育の基本と内容②食育計画の立案									
第14回	食育の基本と内容③食育計画の準備									
第15回	食育の基本と内容④食育計画のまとめ・発表									
定期試験	筆記試験を実施する									
⑧自主学習の課題	予習：授業内容に該当する教科書の部分を事前に読み、ポイントをつかんでおくこと。 調理実習では衛生面が重要となりますので、各自で身支度や器具・食材の扱い方を確認しておくこと。(約30分の学習時間を要する) 復習：授業で得た内容を振り返り、テキストや配布資料を読み直し、大切な点や調理の反省点などをまとめておくこと。 授業で示された課題の提出期限は厳守し、必ず提出すること。(約30分間の学習時間を要する)									
⑨テキスト	青木三恵子編著『子どもの食と栄養「生きる力」を育むために』講談社									
⑩参考書/参考資料/準備物等	・『オールガイド食品成分表』実教出版 ・中村丁次著『楽しくわかる栄養学』羊土社 ・厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 ・文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 ・内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 ・その他、適宜授業で紹介する									
⑪教材費	教材費、材料費として1,500円									
⑫履修条件/履修上の注意事項	・調理実習の際はエプロン、三角巾(バンダナ)、マスク、ハンドタオル、上履き(実習靴)を準備し、身だしなみを整える (不適切なアクセサリを外し、長い髪は束ね、爪を短く切りマニキュアは必ずとる)									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目	幼児期の食生活	日本の食文化	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	幼児期の食育	③配点比率					
②評価方法										
1 定期試験	○	○	○					50	%	
2 小テスト			○					10	%	
3 提出物	○							10	%	
4 発表・実技・プレゼン				○				10	%	
5 受講態度	○	○	○	○				20	%	
6 自主学習態度								0	%	
7 その他								0	%	
④ルーブリック評価	取り入れていない						比率合計	100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	採点した課題、小テスト等を授業内で返却、講評する。									
IV その他										
状況により、授業内容や授業計画の進行方法を変更する場合があります。										

I 科目に関する項目									
①科目名	社会的養護 I Theory of Social Care for Children I					②科目コード	Y2-3A001		
③担当教員名	平野 美香								
④実務経験	臨床心理士（19年）、公認心理師（6年）					⑤担当形態			
⑥開講対象	専攻科 幼児保育専攻 ★幼児保育学科 ★2年	⑦開講期	前期	⑧単位 (時間数)	2単位 (30)	⑨授業 形態	講義	⑩必選 別	選択
⑪関連免許資格等	幼児種 免許	特二種 免許		保育士 資格	必修	発達障がい児 保育 BP 修了			
⑫教職課程									
⑬保育士養成課程	【必修科目】（告示別表1による教科目）保育の本質・目的の管理に関する科目 社会的養護 I（講義）								
II 授業内容に関する項目									
①テーマ	子ども虐待と社会的養護の現状と基本理念、代替養育（施設養護／家庭の養護）について学ぶ								
②授業の概要	臨床心理士（公認心理師）として、社会的養護分野で子ども・家庭支援を行ってきた教員が担当する。虐待を受けるなど、家庭で養育されることが適当ではない子どもを社会で養育する仕組みを社会的養護と言う。本講では、社会的養護の現状と課題、家庭に代わる代替養育の場である施設養護と家庭養護（里親・養子縁組）等について学ぶ。また、事例検討で子ども虐待の実態と対応について学びを深め、支援方法を考えられるようになることを目的とする。子どもの支援者としての自覚を持ち、平日頃から、子ども家庭福祉に関する時事問題に関心を寄せてほしい。授業はパワーポイントとレジュメを用いて行い、事例検討ではグループワークを実施する。また、Google classroomを活用し、授業資料や課題を提示することで、学生の自主学習を支援する。遠隔授業が必要な場合は、Google classroom を利用し、オンデマンド型の学習を行う。								
③履修者の到達目標 (学習成果)	1【社会的養護の現状と課題・原理の理解】社会的養護の現状と課題・原理を理解し、説明できる。 2【虐待と対応】子ども虐待について知り、子どもや養育者に対する支援を考えることができる。 3【施設養護・家庭養護の現状と課題】施設養護と家庭養護について、現状と課題を述べることができる。 4【関心と意見】子ども家庭福祉に関する問題に関心をもち、自分なりの考えを述べるることができる。								
④ディプロマポリシー (DP) との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性				
⑤アクティブ・ラーニ ング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業		ディスカッション・ディベート	○			
	グループワーク	○	プレゼンテーション		実習・フィールドワーク				
⑥ ICT 機器による 授業や支援	パソコン・タブレット端末による 双方向授業			グーグルクラスルーム等による 学習状況の把握と自主学習支援			○		
⑦授業の計画（授業の内容）									
第1回	子ども・家庭を取り巻く現状と社会的養護								
第2回	社会的養護の現状と基本理念、子どもの権利擁護								
第3回	社会的養護の原理とケアワーカーの役割								
第4回	子ども虐待と児童相談所の機能								
第5回	子ども虐待の対応①現状と事例検討の基礎知識・方法								
第6回	子ども虐待の対応②事例検討 レポート作成								
第7回	施設養護①児童養護施設								
第8回	施設養護②乳児院・③母子生活支援施設								
第9回	施設養護④障がい児施設								
第10回	施設養護⑤児童心理治療施設								
第11回	施設養護⑥児童自立支援施設								
第12回	施設養護⑦児童自立援助ホーム								
第13回	地域の中の福祉施設—子ども家庭支援センター（事例検討 レポート作成）								
第14回	家庭的養護①日本の社会的養護システムの課題と今後の方向								
第15回	家庭的養護②里親制度、ファミリーホーム、養子縁組制度								
定期試験	筆記試験（レジュメ持ち込み可）を実施する								
⑧自主学習の課題	予習：常に社会的養護や子育てにかかわるニュースを敏感に取り入れ、自分なりに考える。意見や疑問点を授業で質問できるとよい。 復習：配布レジュメと Classroom にアップしたパワポ資料を読み返す。実習やボランティアでの経験や時事ニュースと結びつけて考え、具体的なイメージを持つよう努める。レポート課題がある場合は、作成する。								
⑨テキスト	不要。講師が準備したパワーポイントとレジュメを用いる。								
⑩参考書／参考資料 ／準備物等	授業時に随時紹介する 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館								
⑪教材費	なし								
⑫履修条件／履修上 の注意事項	・ Google classroom に毎回の授業資料や課題をアップする。学生は本科目の classroom に必ず参加し（クラスコードは授業開始前に e-pa で送信し、初回授業時に紙媒体でも伝える）、Classroom を利用して、授業後の復習や授業を欠席した場合の学習を行うこと。 ・ やむを得ず授業を欠席した場合は、翌週の授業時に授業資料を受け取るか、Classroom にアップされた資料を各自印刷すること。 ・ 数回提出を予定している事例検討レポートは必ず自分なりに考えて作成し、提出すること。								
III 学習項目と評価方法・配点比率									
①学習項目		社会的養護 の現状と課題	虐待と対応	施設養護・家 庭養護の現状 と課題	関心と意見			③配点比率	
②評価方法									
1	定期試験	○	○	○	○			75	%
2	小テスト							0	%
3	提出物		○	○	○			15	%
4	発表・実技・プレゼン							0	%
5	受講態度	○	○	○	○			5	%
6	自主学習態度	○	○	○	○			5	%
7	その他							0	%
④ルーブリック評価	取り入れていない					比率合計	100 %		
⑤課題等に対するフィード バックの方法	提出レポートは添削し、返却したうえで解説する。 成績評価についての問い合わせには個別に応じる。								
IV その他									

I 科目に関する項目										
①科目名	社会的養護Ⅱ Theory of Social Care for Children Ⅱ					②科目コード	Y4-3B002			
③担当教員名	平野 美香									
④実務経験	臨床心理士（19年）、公認心理師（6年）					⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	専攻科 幼児保育専攻 ★幼児保育学科 ★2年	⑦開講期	後期	⑧単位（時間数）	1単位（30）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択	
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許		保育士資格	必修	発達障がい児保育BP修了				
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程										
Ⅱ 授業内容に関する項目										
①テーマ	社会的養護における子どもの理解と実践的ケアを学ぶ									
②授業の概要	臨床心理士（公認心理師）として、社会的養護分野で子ども家庭支援を行ってきた教員が担当する。前期、社会的養護の授業を通して学んだ現状や制度の知識を基に、子ども理解のためのアセスメントの基礎知識、虐待の影響と対応、自立への支援等を学び、社会的養護を必要とする子どもたちへの実践的な理解と対応力を身に付けることを目的とする。また、子ども虐待や施設での子ども対応に関する事例検討を通して、子どもや家族の状態をアセスメントし、支援方法を自分なりに考える力を培う。 授業はパワーポイントとレジュメ、テキストを用いて行い、事例検討ではグループワークを実施する。また、Google classroomを活用し、授業資料や課題を提示することで学生の自主学習を支援する。遠隔授業が必要な場合は classroom を利用し、オンデマンド型の学習を行う。									
③履修者の到達目標（学習成果）	1【子どもの理解】子どもや家庭の状態を理解するための基礎知識を身につけ、ある程度アセスメントできる。 2【虐待の影響と対応の理解】虐待を受けた子どもの状態とそのケアについて、説明できる。 3【支援方法】子どもや家庭の状態の理解に基づいて、支援方法を複数述べるができる。 4【考え伝える】知識と情報をもとに自分なりに考え、相手に伝えることができる。									
④ディプロマブリシ（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習 グループワーク	反転授業 プレゼンテーション		ディスカッション・ディベート 実習・フィールドワーク		○				
⑥ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による 双方向授業			グーグルクラスルーム等による 学習状況の把握と自主学習支援			○			
⑦授業の計画（授業の内容）										
第1回	子ども虐待の死亡事例と保育所の対応 ①現状と解説・事例の読み込み									
第2回	子ども虐待の死亡事例と保育所の対応 ②事例検討 グループワーク・レポート作成									
第3回	子どもの理解－アセスメントの基礎知識 ①アセスメントとは ②愛着障害									
第4回	子どもの理解－アセスメントの基礎知識 ③トラウマ									
第5回	子どもの理解－アセスメントの基礎知識 ④その他のこころの障害									
第6回	子どもを迎えるとき ①児童票の読み方と見立て 事例検討 グループワーク・レポート作成									
第7回	子どもを迎えるとき ②子どもを迎える準備とケア									
第8回	施設での集団生活									
第9回	子ども同士のトラブルの対応 事例検討 事例検討 レポート作成									
第10回	家族関係への支援 ①家族再統合に向けて									
第11回	家族関係への支援 ②生い立ちの整理									
第12回	虐待の影響と対応 ①身体的虐待・心理的虐待・ネグレクト									
第13回	虐待の影響と対応 ②性的虐待									
第14回	自立への支援									
第15回	職員の働き方－チームワークと代替養育者による虐待の防止									
定期試験	筆記試験（レジュメ・テキスト持ち込み可）を実施する									
⑧自主学習の課題	予習：常に社会的養護や子育てにかかわるニュースに敏感になって取り入れ、自分なりに考える。疑問や意見を授業時に言えることよ。 復習：Classroom にアップしたパワポ資料と、授業で書き込んだ配布レジュメを読み返す。レポート課題がある場合は、作成する学んだことを、実習やボランティアでの経験や時事ニュースと結び付けて考え、具体的なイメージを持つよう努める。									
⑨テキスト	中山正雄編著『実践から学ぶ社会的養護の内容』教育情報出版 2019.2									
⑩参考書／参考資料／準備物等	授業時に随時紹介する 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	なし									
⑫履修条件／履修上の注意事項	・ Google classroom に毎回の授業資料や課題をアップする。学生は本科目の classroom に必ず参加し（クラスコードは初回授業で伝える）、Classroom を利用して、授業後の復習や授業を欠席した場合の学習を行うこと。 ・ やむを得ず授業を欠席した場合は、翌週の授業時に授業資料を受け取るか、Classroom にアップされた資料を各自印刷する。 ・ 数回提出を予定している事例検討レポートは、必ず自分なりに考えて作成し提出すること。									
Ⅲ 学習項目と評価方法・配点比率										
	①学習項目	子どもの理解	虐待の影響と対応の理解	支援方法	考え伝える			③配点比率		
1	定期試験	○	○	○	○			75	%	
2	小テスト							0	%	
3	提出物	○	○	○	○			15	%	
4	発表・実技・プレゼン			○	○			2	%	
5	受講態度	○	○	○	○			5	%	
6	自主学習態度	○	○	○	○			3	%	
7	その他							0	%	
④ルーブリック評価	取り入れていない							比率合計	100	%
⑤課題等に対するフィードバックの方法	提出レポートは添削し、返却したうえで解説する。 成績評価に対する問い合わせは個別に応じる。									
Ⅳ その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	子育て支援 Childcare Support (Exercises)					②科目コード	Y4-3B003			
③担当教員名	平田 美智子									
④実務経験	社会福祉士					⑤担当形態	単独			
⑥開講対象	専攻科 幼児保育専攻 ★幼児保育学科 ★2年	⑦開講期	後期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択	
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許	保育士資格	必修	発達障がい児保育 BP 修了					
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【必修科目】(告示別表1による教科目) 保育の内容・方法の理解に関する科目 子育て支援(演習)									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	保育現場における子育て支援の在り方について学ぶ									
②授業の概要	子育て支援の現状と課題について学んだ上で、子育て支援の実際について多様な事例から支援の必要性と意義について理解を深めることを目的とする。また、講師の児童相談所や福祉事務所勤務における実務経験に基づき、相談支援の基本を踏まえながら、保育者の実践について演習方式で学ぶ。さらに、地域資源の活用と専門機関との連携を視野に入れた支援に関する知識を養う。									
③履修者の到達目標(学習成果)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子育て支援の意義や原則、援助・支援方法の具体的内容を述べることができる。 2. 保護者を支援するための基本姿勢を理解し、グループ・ディスカッションを通して仮想事例に基づいた支援計画を立案・検討することができる。 3. 地域資源や専門機関等について調べ、グループワークを通して子育て支援に必要な連携について考えることができる。 									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	ディスカッション・ディベート	グループワーク	プレゼンテーション	実習・フィールドワーク	○			
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援						
⑦授業の計画(授業の内容)										
第1回	ガイダンス(授業のねらい・進め方・成績評価の説明)と子育て支援の意義を知る									
第2回	保育と子育てに関する概要を学ぶ									
第3回	子どもの権利と子育て支援を学ぶ									
第4回	保育の専門性と子育て支援を学ぶ									
第5回	子育て支援の展開過程・子育て支援における計画・記録・評価									
第6回	(ディスカッションを含む演習方式) 保護者との信頼関係の構築									
第7回	(ディスカッションを含む演習方式) 保護者の理解とかかわり方									
第8回	(ディスカッションを含む演習方式) 地域資源の活用と関係機関との連携・協力									
第9回	(ディスカッションを含む演習方式) 保育所の特性を生かした保護者への支援									
第10回	(ディスカッションを含む演習方式) 特別な支援を要する保護者への支援(児童虐待)									
第11回	(ディスカッションを含む演習方式) 特別な支援を必要とする保護者への支援(ひとり親・外国人家族)									
第12回	(ディスカッションを含む演習方式) 問題・課題のある保護者への支援									
第13回	(ディスカッションを含む演習方式) 問題・課題のある保護者への支援									
第14回	(ディスカッションを含む演習方式) 児童発達支援センターにおける子育て支援									
第15回	子育て支援の課題についてのまとめ、振り返り授業内レポート									
定期試験	実施しない									
⑧自主学習の課題	予習: 約30分間の学習時間を要する。 復習: 約30分間の学習時間を要する。									
⑨テキスト	小原敏郎・橋本好市・三浦主博編集「学ぶ・わかる・みえるシリーズ保育と現在社会『演習・保育と子育て支援』」2022 みらい									
⑩参考書/参考資料/準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	なし									
⑫履修条件/履修上の注意事項	毎回の授業では、他の教科や実習で学習した知識・経験を基に、積極的にディスカッションに参画し、発表を行って下さい。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	保護者支援の意義や原則等	支援の基本的理解と支援計画	支援方法の考案					③配点比率	
	1 定期試験							0	%	
2 小テスト	○	○	○				70	%		
3 提出物	○	○	○				10	%		
4 発表・実技・プレゼン	○	○	○				10	%		
5 受講態度	○	○	○				10	%		
6 自主学習態度							0	%		
7 その他							0	%		
④ルーブリック評価	取り入れていない						比率合計	100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	成績評価に対する問い合わせには個別に応じる。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	保育実習 I (施設) Training of Childcare I					②科目コード	Y5-3C001			
③担当教員名	打越 みゆき 井出 麻里子									
④実務経験						⑤担当形態	複数			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	前期	⑧単位(時間数)	2単位(70)	⑨授業形態	実習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		必修		発達障がい児保育 BP 修了	
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【必修科目】(告示別表1による教科目) 保育実習 保育実習 I (実習)									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	保育所以外の児童福祉施設・社会福祉施設における実習									
②授業の概要	施設実習を通して、施設の役割・機能、子ども・利用者の理解と対応、施設の子ども・利用者の生活と環境、健康管理・安全対策の理解、保育士の職務や職業倫理について具体的に理解する。日々の実践について実習日誌に記録し、自己省察を行うとともに自己評価する。									
③履修者の到達目標(学習成果)	1. 実習課題：実習課題に基づいて実習に臨み、施設理解を深めることができる。 2. 実習日誌：日々の実践を振り返り、実習日誌にエピソードおよび気づきを記録できる。 3. 施設理解・利用者支援：施設の子ども・利用者の生活について理解し、子ども・利用者への直接的・間接的援助を実践できる。 4. 実習の振り返り・自己評価：実習後に自らの学びを振り返り、自己課題を発見するとともに、これらを記述することができる。									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業		ディスカッション・ディベート					
	グループワーク		プレゼンテーション		実習・フィールドワーク	○				
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援						
⑦授業の計画(授業の内容)										
第1回	【事前】実習施設におけるオリエンテーション									
第2回	1. 施設の役割と機能 (1) 施設の生活と一日の流れ									
第3回	1. (2) 施設の役割と機能									
第4回	2. 子ども理解 (1) 子どもの観察とその記録									
第5回	2. (2) 個々の状態に応じた援助やかかわり									
第6回	3. 養護内容・生活環境 (1) 計画に基づく活動や援助									
第7回	3. (2) 子どもの心身の状態に応じた対応									
第8回	3. (3) 子どもの活動と生活の環境									
第9回	3. (4) 健康管理、安全対策の理解									
第10回	4. 計画と記録 (1) 支援計画の理解と活用									
第11回	4. (2) 記録に基づく省察・自己評価									
第12回	5. 専門職としての保育士の役割と倫理 (1) 保育士の業務内容									
第13回	【事後】実習の振り返りおよび自己評価									
第14回	【事後】実習体験の分かち合い									
第15回	【事後】実習日誌の振り返り									
定期試験	実施しない									
⑧自主学習の課題	翌日の実習の準備および実習日誌の記入									
⑨テキスト	守巧(他著)『施設実習パーフェクトガイド』わかば社 大豆生田啓友(編著)『これからの時代の保育者養成・実習ガイド』中央法規出版									
⑩参考書/参考資料/準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	「保育実習費」「資格取得料」として徴収した費用に含まれている									
⑫履修条件/履修上の注意事項	・施設からの総合評価が D (不合格) 評価の場合は、その評価が妥当か総合的に検討した上で不合格となる。 ・総合考察を含めた最終日誌提出は、実習終了後3日以内に実習施設に提出する。 ・施設から日誌が戻り次第、教務学生支援課に提出する。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	実習課題	実習日誌	施設理解 利用者支援	実習の振り返り 自己評価	③配点比率				
1	定期試験					0	%			
2	小テスト					0	%			
3	提出物	○	○	○	○	20	%			
4	発表・実技・プレゼン					0	%			
5	受講態度	○	○	○	○	10	%			
6	自主学習態度	○	○	○	○	30	%			
7	実習施設からの評価	○	○	○	○	40	%			
④ルーブリック評価	取り入れている(実習日誌)				比率合計		100	%		
⑤課題等に対するフィードバックの方法	実習日誌の採点と実習施設からの評価をふまえて個別指導を行う。									
IV その他										

I 科目に関する項目										
①科目名	保育実習指導 I (施設) Practical Training of Childcare I					②科目コード	Y5-3C002			
③担当教員名	打越 みゆき 井出 麻里子									
④実務経験						⑤担当形態	複数			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	前期	⑧単位(時間数)	1単位(30)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許			保育士資格	必修	発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【必修科目】(告示別表1による教科目) 保育実習 保育実習指導 I (演習)									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	保育所以外の児童福祉施設・社会福祉施設の役割・機能、利用者の支援、職務および職業倫理を実習から修得するための事前事後指導									
②授業の概要	保育所以外の施設の役割・機能、子ども・利用者の生活、施設における保育士等の専門職の役割・職業倫理について理解を深める。 これらの学びをふまえて、実習課題を立案し、実習の目的を明確にするとともに、実習に対する心構えを身につける。事後指導により、施設保育士の役割や職務および実習課題の達成度を振り返り、自己課題を明確にする。 公認心理師(臨床発達心理士)および保育士資格を有する教員が担当し、事例や映像資料をふまえた施設および利用者理解と施設保育士の職責について解説する。 反転授業および自主学習課題として、Google classroom を活用し授業資料や課題を提示する。									
③履修者の到達目標(学習成果)	1. 施設理解：保育所以外の児童福祉施設・社会福祉施設の役割・機能と利用者、保育士の職務と職業倫理の基本を理解できる。 2. 実習課題・日誌：これまでの実習経験や事前学習をふまえて、実習課題を立てるとともに、実習日誌の記録方法を習得する。 3. 心構えとマナー：実習に対する心構えやマナーについて理解し、実践に結びつけることができる。 4. 自己課題の発見：実習前後に自己課題について具体的に振り返ることができる。									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業	○	○	○	ディスカッション・ディベート	○			
⑥ ICT 機器による授業や支援	グループワーク	○	プレゼンテーション			実習・フィールドワーク				
⑦授業の計画(授業の内容)	パソコン・タブレット端末による双方向授業									
⑧自主学習の課題	○									
⑨テキスト	グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援									
⑩参考文献/参考資料/準備物等	○									
⑪教材費	○									
⑫履修条件/履修上の注意事項	○									
①学習項目	施設理解	実習課題・日誌	心構えとマナー	自己課題の発見			③配点比率			
②評価方法										
1 定期試験							0	%		
2 小テスト							0	%		
3 提出物	○	○	○	○			60	%		
4 発表・実技・プレゼン							0	%		
5 受講態度	○	○	○	○			40	%		
6 自主学習態度							0	%		
7 その他							0	%		
④ルーブリック評価	取り入れていない					比率合計	100	%		
⑤課題等に対するフィードバックの方法	提出物は随時返却する。									
IV その他										
学生要覧「保育士となる資格の取得」に関するページを熟読すること。										

I 科目に関する項目										
①科目名	保育実習Ⅱ（保育所）Training of Childcare Ⅱ					②科目コード	Y5-3C003			
③担当教員名	井出 麻里子 打越 みゆき									
④実務経験						⑤担当形態	複数			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	前期	⑧単位（時間数）	2単位（70）	⑨授業形態	実習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許			保育士資格	選択必修	発達障がい児保育BP修了			
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【選択必修科目】（告示別表第2による教科目）保育実習 保育実習Ⅱ（実習）									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	保育士として必要な資質・能力・技術の習得、指導計画の立案・実践・振り返り、保護者への対応方法・子育て支援の方法の習得									
②授業の概要	「保育実習Ⅰ（保育所）」における実習での課題を踏まえ、保育全般に参加し、保育士の職務の理解、子どもの個人差・発達の違いによる対応方法、保護者への対応の方法、子育て支援のニーズと地域の社会資源との連携について学ぶ。また、一日の保育あるいは保育の一部分を担当する指導計画を立案・実践し、振り返りを行い、今後の自己の学習課題とその具体的方法について明確にする。									
③履修者の到達目標（学習成果）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習課題：実習課題に基づいて実習に臨み、保育所理解を深めることができる。 2. 実習日誌：日々の実践を振り返り、実習日誌にエピソードおよび気づきを記録できる。 3. 施設理解・利用者支援：保育所の子ども・利用者の生活について理解し、子ども・利用者への直接的・間接的援助を実践できる。 4. 実習の振り返り・自己評価：実習後に自らの学びを振り返り、自己課題を発見するとともに、これらを記述することができる。 									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業		ディスカッション・ディベート						
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業				グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援					
⑦授業の計画（授業の内容）										
第1回	実習施設におけるオリエンテーション									
第2回	1. 保育所の役割や機能の具体的な展開（1）養護と教育が一体となって行われる保育									
第3回	1.（2）保育所の社会的役割と責任									
第4回	2. 観察に基づく保育理解（1）子どもの心身の状態や活動の観察									
第5回	2.（2）保育士等の動きや実践の観察									
第6回	2.（3）保育所の生活の流れや展開の把握									
第7回	3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携（1）環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解									
第8回	3.（2）入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援									
第9回	3.（3）地域社会との連携									
第10回	4. 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価（1）保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解									
第11回	4.（2）作成した指導計画に基づく保育実践と評価									
第12回	5. 保育士の業務と職業倫理（1）多様な保育の展開と保育士の業務									
第13回	5.（2）多様な保育の展開と保育士の職業倫理									
第14回	【事後】実習の振り返りおよび自己評価									
第15回	【事後】実習日誌の振り返り									
定期試験 実施しない										
⑧自主学習の課題	翌日の実習の準備および実習日誌の記入									
⑨テキスト	大豆生田啓友（編著）「これからの時代の保育者養成・実習ガイド」中央法規出版									
⑩参考書／参考資料／準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	「保育実習費」「資格取得料」として徴収した費用に含まれている。									
⑫履修条件／履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所からの総合評価が「D（不合格）」評価の場合は、その評価が妥当か総合的に検討した上で不合格となる。 ・総合考察を含めた最終日誌は、実習終了後3日以内に実習保育所に提出する。 ・保育所から日誌が戻り次第、教務・学生支援課に提出する。 									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
②評価方法	①学習項目	実習課題	実習日誌	施設理解 利用者支援	実習の振り返り 自己評価	③配点比率				
1	定期試験					0	%			
2	小テスト					0	%			
3	提出物	○	○	○	○	20	%			
4	発表・実技・プレゼン					0	%			
5	受講態度	○	○	○	○	10	%			
6	自主学習態度	○	○	○	○	30	%			
7	実習施設からの評価	○	○	○	○	40	%			
④ルーブリック評価	取り入れている（実習日誌）				比率合計	100	%			
⑤課題等に対するフィードバックの方法	実習日誌の採点と実習施設からの評価をふまえて個別指導を行う。									
IV その他										

I 科目に関する項目											
①科目名	保育実習指導Ⅱ（保育所） Practical Training of Childcare II					②科目コード	Y5-3C004				
③担当教員名	井出 麻里子 打越 みゆき										
④実務経験						⑤担当形態	複数				
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	後期	⑧単位（時間数）	1単位（30）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択	
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		選択必修		発達障がい児保育BP修了		
⑫教職課程											
⑬保育士養成課程	【選択必修科目】（告示別表第2による教科目）保育実習 保育実習指導Ⅱ（演習）										
II 授業内容に関する項目											
①テーマ	保育所における子どもの最善の利益を考慮した保育を実習により修得するための事前事後指導										
②授業の概要	保育所保育士としての実践力を習得するための事前準備を行う。事前指導では、既習の科目や保育実習の経験と関連づけながら、保育所の役割や機能、保育の実践力、保育士の専門性と職業倫理などについて理解を深める、実習課題を立てる。また責任実習に向けた準備を行う。事後指導では、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。保育士・公認心理師（臨床発達心理士）を有する教員により、事例などを通して子ども理解および保育士の役割・職責などについて解説する。反転授業および自主学習課題として Google classroom を活用し資料や課題を提示する。										
③履修者の到達目標（学習成果）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所・保育士の理解：保育所の役割・機能と保育士の職務を理解できる。 2. 実習課題：既習の科目やこれまでの実習の学びと関連つけた実習課題を立て、実践を記録することができる。 3. 保育実践・計画：子どもの発達や実態をふまえて責任実習に向けた準備をすることができる。 4. 実習の総括：実習を自己評価し自己課題を明確にする。実習で得られた学びを整理し報告書にまとめることができる。 										
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能			③共感性	④コミュニケーション		⑤協働性			
		○			○	○		○			
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業		○	ディスカッション・ディベート		○			
	グループワーク	○	プレゼンテーション			実習・フィールドワーク					
⑥ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			○	グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			○			
⑦授業の計画（授業の内容）											
第1回	保育実習Ⅱの意義と目的										
第2回	実習Ⅰをふまえた自己課題の発見と実習課題の作成										
第3回	保育実習Ⅰ 日誌分析										
第4回	保育実習Ⅱの日誌の書き方										
第5回	子どもの発達の理解と保育技術										
第6回	責任実習・指導案の準備										
第7回	実習直前指導—実習の心構えと職業倫理—										
第8回	事前指導（個別）										
第9回	実習後の振り返りと自己評価										
第10回	保育士の職務と保育技術についてのグループディスカッション										
第11回	事後指導（個別）および事後指導をふまえた自己課題の発見										
第12回	保育所保育指針を踏まえた保育の在り方を省察する（外部講師・日本保育士研修センター）※グループワーク										
第13回	保育士として働くための心構え（外部講師・日本保育士研修センター）										
第14回	保育士として働くための心構え（外部講師・新人保育士）										
第15回	保育実習のまとめとその共有 ※グループワーク										
定期試験	実施しない										
⑧自主学習の課題	予習：毎回の内容に該当するテキストの章を読む（約30分の学習時間を要する）。 復習：毎回の課題に取り組む（約30分の学習時間を要する）。										
⑨テキスト	大豆生田啓友（編著）「これからの時代の保育者養成・実習ガイド」中央法規出版										
⑩参考書／参考資料／準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館										
⑪教材費	「保育実習費」「資格取得料」として徴収した費用に含まれている。										
⑫履修条件／履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・実習ハンドブックを持参すること。 ・「保育実習Ⅰ（保育所）」「保育実習指導Ⅰ（保育所）」「保育実習Ⅰ（施設）」「保育実習指導Ⅰ（施設）」の4科目すべて合格していること。「保育実習Ⅱ」が不合格・失格の場合、この科目も失格となる。 ・自宅学習が必要な状況となった場合には、オンデマンド型の授業動画及び課題を Google classroom より配信する予定である。 										
III 学習項目と評価方法・配点比率											
②評価方法	①学習項目	保育所・保育士の理解	実習課題	保育実践・計画	実習の総括			③配点比率			
	1 定期試験							0	%		
	2 小テスト							0	%		
	3 提出物	○	○	○	○			60	%		
	4 発表・実技・プレゼン							0	%		
	5 受講態度	○	○	○	○			40	%		
	6 自主学習態度							0	%		
	7 その他							0	%		
④ルーブリック評価	取り入れていない						比率合計		100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	提出物等は随時、返却する										
IV その他											
* 学生要覧の保育実習に関するページを熟読すること											

I 科目に関する項目											
①科目名	保育実習Ⅲ（保育所以外の施設） Training of Childcare Ⅲ						②科目コード	Y5-3C005			
③担当教員名	井出 麻里子 打越 みゆき										
④実務経験							⑤担当形態	複数			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	前期	⑧単位（時間数）	2単位（70）	⑨授業形態	実習	⑩必選別	選択	
⑪関連免許資格等	幼二種免許	特二種免許			保育士資格	選択必修	発達障がい児保育BP修了				
⑫教職課程											
⑬保育士養成課程	【選択必修科目】（告示別表第2による教科目）保育実習 保育実習Ⅲ（実習）										
II 授業内容に関する項目											
①テーマ	保育所以外の児童厚生施設等における実習										
②授業の概要	児童厚生施設等において、その役割や機能、保育士の業務や職業倫理、子どもの保育及び保護者への支援について、実践的、かつ総合的に理解する。 また、援助計画を立案し、実践するとともに、実習の振り返りを行い、今後の学習課題と課題実現の具体的方法を明確にする。										
③履修者の到達目標（学習成果）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習課題：実習課題に基づいて実習に臨み、施設理解を深めることができる。 2. 実習日誌：日々の実践を振り返り、実習日誌にエピソードおよび気づきを記録できる。 3. 施設理解・利用者支援：施設の子ども・利用者の生活について理解し、子ども・利用者への直接的・間接的援助を実践できる。 4. 実習の振り返り・自己評価：実習後に自らの学びを振り返り、自己課題を発見するとともに、これらを記述することができる。 										
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カリック・教養・人間性	②専門知識・技能		③共感性	④コミュニケーション		⑤協働性				
		○		○	○		○				
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習	反転授業		ディスカッション・ディベート							
	グループワーク	プレゼンテーション		実習・フィールドワーク			○				
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援							
⑦授業の計画（授業の内容）											
第1回	【事前】実習施設におけるオリエンテーション										
第2回	1. 児童福祉施設等（保育所以外）の役割と機能										
第3回	2. 施設における支援の実際										
第4回	2（1）受容し、共感する態度										
第5回	2（2）個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子ども理解										
第6回	2（3）個別支援計画の作成と実践										
第7回	2（4）子どもの家族への支援と対応										
第8回	2（5）多様な専門職との連携										
第9回	2（6）地域社会との連携										
第10回	3. 保育士の多様な業務と職業倫理										
第11回	4. 保育士としての自己課題の明確化										
第12回	【事後】学生による実習終了報告										
第13回	【事後】実習の振り返りおよび自己評価										
第14回	【事後】実習体験の分かち合い										
第15回	【事後】実習日誌の振り返り										
定期試験	実施しない										
⑧自主学習の課題	翌日の実習の準備および実習日誌の記入										
⑨テキスト	守巧（他著）『施設実習パーフェクトガイド』わかば社 大豆生田啓友（編著）『これからの時代の保育者養成・実習ガイド』中央法規出版										
⑩参考書／参考資料／準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館										
⑪教材費	「保育実習費」「資格取得料」として徴収した費用に含まれている。										
⑫履修条件／履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・施設からの総合評価が D（不合格）評価の場合は、その評価が妥当か総合的に検討した上で不合格となる。 ・総合考察を含めた最終日誌提出は、実習終了後3日以内に実習施設に提出する。 ・施設から日誌が戻り次第、教務学生支援課に提出する。 										
III 学習項目と評価方法・配点比率											
②評価方法	①学習項目	実習課題	実習日誌	施設理解 利用者支援	実習の振り返り 自己評価			③配点比率			
1	定期試験							0	%		
2	小テスト							0	%		
3	提出物	○	○	○	○			20	%		
4	発表・実技・プレゼン							0	%		
5	受講態度	○	○	○	○			10	%		
6	自主学習態度	○	○	○	○			30	%		
7	実習施設からの評価	○	○	○	○			40	%		
④ルーブリック評価	取り入れている（実習日誌）						比率合計		100	%	
⑤課題等に対するフィードバックの方法	実習日誌の採点と実習施設からの評価をふまえて個別指導を行う。										
IV その他											

I 科目に関する項目										
①科目名	保育実習指導Ⅲ（保育所以外の施設） Practical Training of Childcare Ⅲ					②科目コード	Y5-3C006			
③担当教員名	井出 麻里子 打越 みゆき									
④実務経験						⑤担当形態	複数			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	後期	⑧単位（時間数）	1単位（30）	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格	選択必修	発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【選択必修科目】（告示別表第2による教科目）保育実習 保育実習指導Ⅲ（演習）									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	児童厚生施設等の役割、保育・支援の実践、職員の職務・職業倫理を実習により修得するための事前事後指導									
②授業の概要	児童厚生施設等の児童福祉施設の役割、利用者への支援、職員の職務および職業倫理について理解を深める。事前指導では、既習の科目や保育実習の経験と関連づけながら児童福祉施設の役割や機能について理解を深め、実習課題を立てる。 また、児童厚生施設等における子ども、保護者への対応や保育実践の基本について修得する。事後指導では、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。保育士および公認心理師（臨床発達心理士）を有する教員により、子どもの保育および保護者支援、職業倫理等について事例やグループワークなどを用いて解説する。Google classroom を活用し資料や課題を提示する。									
③履修者の到達目標（学習成果）	<ol style="list-style-type: none"> 施設・保育士の理解：児童厚生施設の役割・機能と職員の職務・職業倫理を理解できる。健全育成につながる遊びについて考えたり、児童館が行う子育て支援の内容と重要性について理解したりできる。 実習課題：既習の科目や実習を関連づけた実習課題を立て、実践を記録することができる。 保育実践・計画：利用者の理解・対応を修得するとともに部分実習の準備をすることができる。 実習の総括：実習を自己評価し自己課題を明確にする。実習で得られた学びを整理し報告書にまとめることができる。 									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業	○	ディスカッション・ディベート	○				
	グループワーク	○	プレゼンテーション		実習・フィールドワーク					
⑥ ICT 機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			○	グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			○		
⑦授業の計画（授業の内容）										
第1回	保育実習Ⅲの意義と目的									
第2回	保育実習Ⅰをふまえた自己課題の発見と実習課題の作成									
第3回	保育実習Ⅰ 日誌分析									
第4回	保育実習Ⅲの日誌の書き方									
第5回	児童厚生施設の役割・機能および職員の職務・職業倫理									
第6回	部分実習・指導案の準備									
第7回	実習直前指導—実習の心構えと職業倫理—									
第8回	事前指導（個別）									
第9回	実習後の振り返りと自己評価									
第10回	保育士の職務と保育技術についてのグループディスカッション									
第11回	事後指導（個別）および事後指導をふまえた自己課題の発見									
第12回	保育の在り方を省察する（外部講師・日本保育士研修センター）※グループワーク									
第13回	保育士として働くための心構え（外部講師・日本保育士研修センター）									
第14回	保育士として働くための心構え（外部講師・新人保育士）									
第15回	児童福祉施設の機能と保育士の職務の理解 まとめとその共有 ※グループワーク									
定期試験	実施しない									
⑧自主学習の課題	予習：教科書の実習に関する部分を読んでおく（約30分の学習時間を要する）。 復習：毎回の課題に取り組む（約30分の学習時間を要する）。									
⑨テキスト	守巧（他著）『施設実習パーフェクトガイド』わかば社 大豆生田啓友（編著）『これからの時代の保育者養成・実習ガイド』中央法規出版									
⑩参考書／参考資料／準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	「保育実習費」「資格取得料」として徴収した費用に含まれている。									
⑫履修条件／履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・実習ハンドブックを持ってくる。 ・「保育実習Ⅰ（保育所）」「保育実習指導Ⅰ（保育所）」「保育実習Ⅰ（施設）」「保育実習指導Ⅰ（施設）」の4科目すべて合格していること。「保育実習Ⅱ」が不合格・失格の場合、この科目も失格となる。 ・自宅学習が必要な状況となった場合には、オンデマンド型の授業動画及び課題を Google classroom より配信する予定である。 									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目	施設・保育士の理解	実習課題	保育実践・計画	実習の総括	③配点比率					
②評価方法										
1 定期試験								0		%
2 小テスト								0		%
3 提出物	○	○	○	○				60		%
4 発表・実技・プレゼン								0		%
5 受講態度	○	○	○	○				40		%
6 自主学習態度								0		%
7 その他								0		%
④ルーブリック評価	取り入れていない							比率合計	100	%
⑤課題等に対するフィードバックの方法	提出物等は随時、返却する。									
IV その他										
* 学生要覧の保育実習に関するページを熟読すること										

I 科目に関する項目										
①科目名	ベビーシッター論 Theory of Home Visit Child Care				②科目コード	Y4-3B001				
③担当教員名	平野 美香									
④実務経験	臨床心理士（19年）、公認心理師（6年）				⑤担当形態	単独				
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	前期	⑧単位（時間数）	2単位（30）	⑨授業形態	講義	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		発達障がい児保育 BP 修了			
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	家庭訪問保育について学び、居宅訪問型保育の家庭的保育者や、認定ベビーシッターとして働くための知識を身につける									
②授業の概要	臨床心理士（公認心理師）として、子ども家庭支援に関わってきた教員が担当する。家庭訪問保育は従来、細やかで柔軟性を持った保育サービスとして子育て家庭を支えてきたが、現在では国の子育て支援制度の中に居宅訪問型保育として正式に位置づけられ、その重要性を増している。 本講では、家庭訪問保育者の役割と責務、発達に即した保育内容、子育てアドバイス等、家庭における子ども・親への支援を学び、制度上の居宅訪問型保育の家庭的保育者や、認定ベビーシッターとして働く基礎知識を身に付けることを目指す。 授業はパワーポイントとレジュメ、テキストを用いて行う。また Google classroom を活用し、授業資料や課題を提示することで学生の自主学習を支援する。遠隔授業が必要な場合は classroom を利用し、オンデマンド型の学習を行う。									
③履修者の到達目標（学習成果）	1【家庭訪問保育の理解】国の子育て支援制度である居宅訪問型保育と一般型の家庭訪問保育について説明できる 2【安全と健康の理解】子どもの安全と健康を守る知識を持つ 3【家庭保育の実践】発達に即した家庭での保育や、親への支援を考えることができる 4【現場の対応と連携】現場の問題に対し、同僚や他職種・機関と連携して支援に臨む姿勢を持つことができる →									
④ディプロマポリシー（DP）との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業		ディスカッション・ディベート					
	グループワーク	○	プレゼンテーション		実習・フィールドワーク					
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			グーグルクラスルーム等による学習状況の把握と自主学習支援			○			
⑦授業の計画（授業の内容）										
第1回	家庭訪問保育の体系									
第2回	居宅訪問型保育の概要と課題（事例レポート）									
第3回	家庭的保育者の姿勢と子どもの「育ち」の理解									
第4回	一般型家庭訪問保育、産後ケア									
第5回	新生児の発達とケア									
第6回	乳児の発達とケア									
第7回	幼児の発達とケア									
第8回	小児保健①子どもの健康管理									
第9回	小児保健②子どもに多い病気と対応									
第10回	リスクマネジメントと事故対応									
第11回	居宅訪問型保育における保育内容・環境整備・運営									
第12回	子どもの遊び・感覚									
第13回	特別に配慮を要する子どもへの対応									
第14回	保護者支援～気がかりな保護者（事例レポート）									
第15回	子育てアドバイスと保育現場での対応（事例レポート）									
定期試験	筆記試験（テキスト、レジュメ持ち込み可）を実施する									
⑧自主学習の課題	予習：各授業回に次回授業の学習箇所について知らせるので、その範囲のテキストを読んでくること。 復習：授業で書き込んだ配布レジュメとテキスト、classroom にアップしたパワポ資料を再読み、気が付いた点をレジュメに書き込むこと。レポート課題がある場合は、作成すること。									
⑨テキスト	全国保育サービス協会監修『家庭訪問保育の理論と実際』中央法規（第3版・2022）									
⑩参考書／参考資料／準備物等	授業で紹介する。 文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館、 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館、 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	なし									
⑫履修条件／履修上の注意事項	Google classroom に毎回の授業資料や課題をアップする。学生は本科目の classroom に必ず参加し（クラスコードは授業開始前に e-pa で送信し、初回授業時に紙媒体でも提示する）、Classroom を利用して授業後の復習や授業を欠席した場合の学習を行うこと。 ・やむを得ず授業を欠席した場合は、翌週の授業時に授業資料を受け取るか、Classroom にアップされた資料を各自印刷すること。 ・数回提出を予定している事例検討レポートは、必ず自分なりに考えて作成し、提出すること。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目	家庭訪問保育の理解	安全と健康の理解	家庭保育の実践	現場の対応と連携	③配点比率					
②評価方法										
1 定期試験	○	○	○	○			75		%	
2 小テスト							0		%	
3 提出物			○	○			15		%	
4 発表・実技・プレゼン							0		%	
5 受講態度	○	○	○	○			5		%	
6 自主学習態度	○	○	○	○			5		%	
7 その他									%	
④ルーブリック評価	取り入れていない				比率合計		100	%		
⑤課題等に対するフィードバックの方法	小レポートは添削し、返却したうえで解説する。 成績評価に対する問い合わせには、個別に応じる。									
IV その他										
「認定ベビーシッター」資格取得に該当する科目である。										

I 科目に関する項目										
①科目名	発達障がい児指導法演習 Practice in Developmental Disorders Guidance					②科目コード	Y5-3C007			
③担当教員名	阿部 健一 竹森 亜美 坂本 真季									
④実務経験	臨床心理士 / 臨床発達心理士 / 公認心理師					⑤担当形態	複数			
⑥開講対象	専攻科	幼児保育専攻	⑦開講期	通年	⑧単位(時間数)	2単位(60)	⑨授業形態	演習	⑩必選別	選択
⑪関連免許資格等	幼二種免許		特二種免許		保育士資格		発達障がい児保育BP修了		必修	
⑫教職課程										
⑬保育士養成課程	【本学独自の科目】保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開講されている教科目									
II 授業内容に関する項目										
①テーマ	インクルーシブ保育現場での発達障がい児支援に関する基礎実践									
②授業の概要	臨床心理士・臨床発達心理士・公認心理師として、発達障害児への療育指導、保育・教育現場への巡回相談、発達障害児をもつ家族への支援に関する実務経験を有する教員による授業である。本授業では、発達障がいの基本的な行動特徴について確認した上で、保育現場で発達障がい児に適切にかかわれるよう、①行動問題について見立てを行う事例検討、②子どもおよび保護者のニーズを踏まえた個別の保育・指導計画の立案、③行動問題が生じた際の支援方法について模擬保育場を設定して練習するシミュレーション・トレーニングを実施する。受講者が自ら考えて実践するアクティブラーニングの形式で授業を展開する。									
③履修者の到達目標(学習成果)	1. 発達障がい児の基本的な行動特徴を踏まえ、行動問題の原因を予測し、いくつかの支援方法を提案することができる。 2. 発達障がい児と保護者のニーズを踏まえ、個別の保育・指導計画を立案することができる。 3. インクルーシブ保育の環境づくりの知識を習得する。									
④ディプロマポリシー(DP)との関係	①カトリック・教養・人間性	②専門知識・技能	③共感性	④コミュニケーション	⑤協働性					
⑤アクティブ・ラーニング実施内容	プロジェクト型学習		反転授業		ディスカッション・ディベート					
⑥ICT機器による授業や支援	パソコン・タブレット端末による双方向授業			Google Classroom等による学習状況の把握と自主学習支援			○			
⑦授業の計画(授業の内容)										
第1回	イントロダクション(インクルーシブ保育とは)			第16回	インクルーシブ保育実践・振り返り					
第2回	子どものアセスメントとインクルーシブ保育現場での実践			第17回	インクルーシブ保育教材(宿題)に関する情報交換会					
第3回	発達障がいの特性を理解する			第18回	ロールプレイの意義と効果について					
第4回	保育現場における事例検討とは			第19回	シミュレーション・トレーニング事前説明					
第5回	事例検討①:(感覚障害をもつ子ども)			第20回	シミュレーション・トレーニング① ※事例検討と同様の題材にて実施					
第6回	事例検討②:(行動調節が困難な子ども)			第21回	シミュレーション・トレーニング②					
第7回	事例検討③:(衝動性の高い子ども)			第22回	シミュレーション・トレーニング③					
第8回	個別の保育・指導計画とは			第23回	シミュレーション・トレーニング・まとめ					
第9回	個別の保育・指導計画の作成方法			第24回	園内支援体制と現職者研修					
第10回	実践事例:個別の保育・指導計画の実施と修正			第25回	保護者の心理と早期支援					
第11回	個別の保育・指導計画と園内支援体制づくり			第26回	発達に偏りのある子どもの保護者への支援(虐待防止)					
第12回	行動問題を理解する枠組み(FBAの視点)			第27回	保育及び教育的ニーズとは何か					
第13回	発達の視点からの子ども理解			第28回	保育・教育現場における合理的配慮					
第14回	インクルーシブ保育教材の紹介/夏休み宿題の提示			第29回	個別の保育・教育支援計画と移行支援					
第15回	インクルーシブ実践・事前指導			第30回	インクルーシブ保育実践に関するまとめ					
定期試験	前期・後期それぞれ実施する。									
⑧自主学習の課題	予習:事前に配られた事例理解シートを読み込むこと。 復習:事例検討やシミュレーション・トレーニングで学んだ技術をノートに記入し、記載した事項や情報を復習すること。 ※予習・復習にそれぞれ約30分間の時間を要する。									
⑨テキスト	大石幸二監修 遠藤愛・太田研著「カンファレンスで深まる・作れる 配慮を要する子どものための個別の保育・指導計画」学苑社									
⑩参考書/参考資料/準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館									
⑪教材費	インクルーシブ教材作成費用は自己負担									
⑫履修条件/履修上の注意事項	履修条件:特になし 履修上の注意事項:発達障害児保育ベーシックプログラムの必修科目であるが、本資格取得を希望しない者も履修可能である。 その他:シミュレーション・トレーニングには、原則、全て出席すること。詳細は、授業時に説明する。									
III 学習項目と評価方法・配点比率										
①学習項目	発達障がいの理解	行動問題の理解と対応	個別の保育・指導計画の作成	インクルーシブ保育の環境づくり					③配点比率	
②評価方法										
1 定期試験	○	○	○	○				70	%	
2 小テスト								0	%	
3 提出物					○			10	%	
4 発表・実技・プレゼン		○	○					20	%	
5 受講態度								0	%	
6 自主学習態度								0	%	
7 その他								0	%	
④ルーブリック評価	取り入れていない							比率合計	100	%
⑤課題等に対するフィードバックの方法	課題(試験やレポート等)の成績評価に対する問い合わせに応ずる。									
IV その他										

星美学園短期大学 学生要覧・講義要項

発 行 者 星美学園短期大学
〒115-8524
東京都北区赤羽台 4-2-14
Tel. (03) 3906-0056
Fax. (03) 5993-1600
発行年月日 2026年4月1日
(100部)
印 刷 上毛印刷株式会社
Tel. (03) 3984-8576